

2016

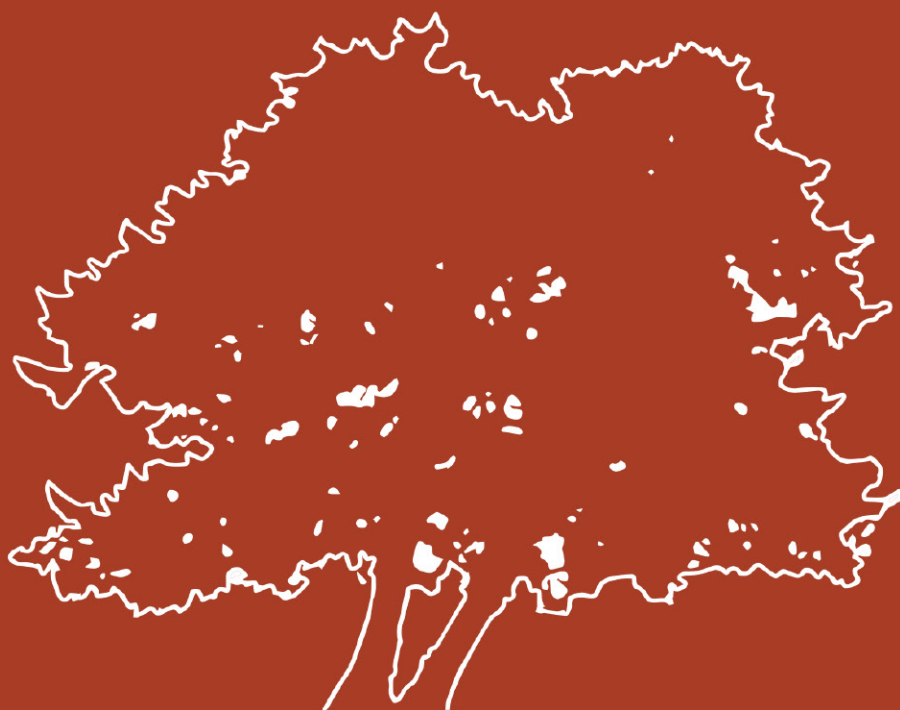
近畿双松会報

— 2016(平成28)年度 —

島根県立松江中学校

島根県立松江高等学校

島根県立松江北高等学校





2016(平成28)年度 近畿双松会報

目次

2016(平成28)年度 近畿双松会「総会 講演会 懇親会」次第	2
2016(平成28)年度 近畿双松会「新年役員会」「総会・講演会・懇親会」報告	3
総会議事(1) 近畿双松会 活動事業報告	6
総会議事(2) 近畿双松会 会計・監査報告	7
総会議事(3) 2016(平成28)年度 近畿双松会役員	8
平成28年度 総会・講演会・懇親会 出席者名簿	9
ご挨拶	13
開会ご挨拶：近畿双松会会長 松本 耕司 (16)	
来賓ご挨拶：双松会副会長 河原 一朗 (23)	
松江北高校校長 泉 雄二郎 (26・理5)	
2016(平成28)年度 松江北高十大ニュース	16
総会・講演会・懇親会 写真	18
記念集合写真／期別テーブル写真／懇親会スナップ写真	
講演抄録	24
「大学は変わるか?・・兵庫県立大学の試みと学長の苦労話」	
講師：兵庫県立大学学長 清原正義氏 (16)	
2016(平成28)年度 「運営費支援、寄付・広告」ご協力者ご芳名	28
追悼 物故会員	30
会員の著書紹介／コラム	31
(報告) 島根県立松江北高校創立140周年記念「双松会総会・懇親会」	32
2016(平成28)年度 諸行事報告 (骨子)	34
■第9回 落語鑑賞会 ■北高野球部の大阪遠征試合の応援 ■第5回「里山歩くぞ!」ハイキング(箕面…)	
■第37回 ゴルフコンペ(春季) ■第11回 文楽鑑賞会 ■(番外)インターハイ陸上競技女子800m応援	
■第11回 歴史ウォーキング(真田丸…) ■第6回 里山歩くぞ!ハイキング(浄瑠璃寺、岩船寺、当尾の里…)	
■第38回 ゴルフコンペ(秋季) ■2017年度 事務局会議(兼)有志新年懇親会 ■2017年度 役員会	
同期会便り	39
■14期 近畿同期会 ■16期 卒業50周年&古稀祝い同窓会 ■17期 関西同窓会	
■18期 近畿地区ミニ同期会 ■22期 関西同窓会「秋の集い」 ■24(理3)期 第1回近畿同窓会	
■26(理5)期 “初”関西同期会	
会員近況報告	42
自由投稿	
「獅子と狛犬」 佐和田 丸 (10)	50
「豊かな4ヶ国を旅して思うこと」 村尾 俊治 (11)	51
編集後記	55

2016(平成28)年度 近畿双松会「総会 講演会 懇親会」次第

2016年11月27日(日) 正午～午後3時45分(受付開始11時半)
於：中央電気倶楽部 5Fホール

◆第一部「平成28年度総会」(正午～12時35分)

司会：三好 資子 副会長(20)

1. 開会の辞：
2. 物故者黙祷：
3. ご挨拶： 近畿双松会 松本 耕司 会長(16)
4. ご来賓ご挨拶： 双松会 河原 一朗 副会長(23)
島根県立松江北高等学校 泉 雄二郎 校長(26・理5)
5. 議長の選任：
6. 議事： (1) 活動報告(スライド)：渡辺悟事務局長(20)
※スライド制作：押田良樹常任顧問(11)
(2) 会計報告・監査報告：渡辺事務局長、梅木隆志監事(16)
(3) 役員の改選：渡辺事務局長
7. 閉会の辞：

◆第二部「講演会」(12時35分～13時30分)

講師紹介：松本会長

【演題】：「大学は変わるか?・・兵庫県立大学の試みと学長の苦労話」

【講師】：清原正義氏(16・兵庫県立大学学長・略歴別掲)

◆全員集合の記念写真撮影◆
＜休憩(10分)＞

◆第三部「懇親会」(13時45分～15時45分)

司会：松本 潤 副会長(23)

1. 開会の辞：
2. ご来賓・講師・ゲスト紹介：
河原 一朗 様(双松会副会長) 金 平 憲 様(16・同幹事長)
泉 雄二郎 様(松江北高校校長) 堀江 玲美 様(62・同教諭・双松会校内幹事)
清原 正義 様(講師・兵庫県立大学学長) 学生ゲスト各位(66・67)
伊藤 征治 様(近畿松江会会長) 竹 谷 奨 様(近畿松江会幹事長)
山口 信夫 様(国宝松江城秘話「誇り高きのぼせもん」著者)
3. 乾杯：(音頭)双松会 金平 憲 幹事長
4. 会食・懇親：(随時、テーブル写真、スナップ写真を撮影)
(スピーチ)：◆学生ゲスト3名と堀江玲美教諭 ◆(映像紹介)高校日本一の
二人の生徒(百人一首かるた読み手部門、陸上女子800m)
◆堀江先生の百人一首三歌朗詠 ◆泉 紳一郎様(24・理3) ◆加藤巡一様(14)
◆山口信夫様(ゲスト) ◆青木謙整様(5)
5. 校歌斉唱(15時半過ぎ)： ※赤山健児の歌 ※山脈浮かびて(全曲)
6. 万歳三唱： 田中一男様(11)
7. 閉会の辞：

＜全終了(解散)：16時＞



■「新年役員会」報告

日時／平成28年1月30日(土) 11時～

会場／中央電気倶楽部

会則第8条に従い、15名の役員が参加して恒例の新年役員会を開催、本年度の運営方針について意見交換し、了承しました。

・主な内容：

- ①5年ごとの周年記念事業(平成30年)をめざし、収支状況の好転に力を注ぐ。
- ②総会懇親会、行事等の参加者の充実。
 - ・各期ごとの活性化、特に20期以降の参加者の拡大への取り組みを強化。
- ③「母校創立140周年記念総会&事業」との協調・応援。
- ④事務局体制の整備。
- ⑤本年度の総会・懇親会は11月27日(日)に中央電気倶楽部で開催。

・参加役員は次のとおりです。(敬称略)

【常任顧問】山本雅昭(7)・押田良樹(11)【会長】松本耕司(16)【副会長】三好資子(20)【監事】梅木隆志(16)・物種慶子(20)【常任幹事】廣政倅彦(7)・加藤巡一(14)・金坂喜好(15)・山崎麻里子(20)・富岡幸子(35)【幹事】田村稔久(6)・萩野貫悟(12)・小田一美(18)・池田喜美代(19) 以上15名

■「総会・講演会・懇親会」報告

日時／平成28年11月27日(日) 正午～15時45分

会場／中央電気倶楽部5Fホール

夜来の雨に参加者の出足が心配されましたが、今年もご来賓や学生ゲストを含む116名もの多数のご出席をいただき、盛大に平成28年度の総会・講演会・懇親会を行いました。(参加者名簿別掲)

本年は2週間前の11月12日(土)に松江でおこなわれた母校創立140周年記念総会懇親会の盛會を受けて、近畿の会合も取り分け賑やかなものとなりました。

開会前にはBGMとして、140周年を記念して、作曲家をめざす生徒により編曲された「校歌140周年記念バージョン」(H28.6.12(日)、松江プラバホールでの音楽系4部「吹奏楽、合唱、弦楽、箏曲」合同定期演奏会で披露)が会場に流れ、いやが上にも気分が盛り上がる中での開会となりました。

(1)第一部：2016(平成28)年度「総会」

(別掲「式次第」参照)

総会は三好資子副会長(20)の司会で始まり、物故者の方々への黙祷、松本耕司会長(16)の開会挨拶に続き、河原一朗双松会副会長(23)、泉雄二郎松江北高校校長(26・理5)から、それぞれご来賓の祝辞をいただきました。ともに直前に盛會裡に開催された創立140周年記念式典に触れられ、会員皆様

への感謝と今後も変わらぬご支援の要請がありました。(ご挨拶の詳細、ならびに140周年式典の模様は別掲)

総会議事は、松本会長が議長となって、活動報告、会計・監査報告、2年に一度の役員の改選報告がなされ、それぞれ満場一致で承認されました。(各詳細は別掲)

(2) 第二部：「講演会」

本年度は、清原正義兵庫県立大学学長(16)に、「大学は変わるか?・・・兵庫県立大学の試みと学長の苦労話」と題して講演をいただき、大学の置かれている現状の興味深い内容に加え、母校愛、郷土愛に満ちたお話に、出席者一同、耳を傾けました。(講演内容は別掲)



また、休憩の前には、参加者皆さんの協力をいただいて、昨年初めて試みた全員を一枚の写真におさめる「大集合写真」に取り組み、昨年以上のショットを得ることができました。

(3) 第三部：「懇親会」

懇親会は松本潤副会長(23)の司会の下、あらためてご来賓・ゲストを拍手でお迎えした後、双松会金平憲幹事長(16)のご発声で乾杯し、スタートしました。

歓談も佳境に入った頃、本年度の学生ゲスト(66・67)3人の皆さんに壇上から自己紹介をいただき、皆で歓迎の大拍手を送りま



した。双松会校内幹事の堀江玲美先生(63)からは北高から持参いただいた3人の恩師からの激励メッセージが手渡され、堀江先生からも「勉強がいそがしいと思うけど、朝日が昇ったら起きる。夜はちゃんと寝て社会人になったらしっかり働けるように健康な身体をつくってほしい」との、参加者一同も納得の心あたたまる励ましをいただきました。



続いて、本年度高校日本一になった二人の生徒のお待ちかねの映像紹介があり、最初は百人一首かきた読み手部門の寺井萌乃さんで、「難波津に咲くやこの花冬ごもり 今を春べと咲くやこの花(王仁)」、「ちはやぶる神代も聞かず竜田川 からくれなゐに水くくるとは(在原業平朝臣)」の二つの歌が紹介され、その清澄な歌声に会場は魅了されました。

さらに、インターハイでの陸上女子800m日本一の福田翔子さんの力走の映像、走り終わってなかなか立ち上がれない姿に感動の拍手が送られました。(福田選手の記事は別掲)

140周年を飾るにふさわしい生徒の活躍の紹介に、会場は沸き立ちましたが、百人一首部の部長だった堀江先生に、司会がナマ声でのご披露をお願いしたところ、即興で「難波津に・・・」を歌っていただき、さらに会場からのアンコールに応じて、「淡路島通ふ千鳥の鳴く声に いく夜寝覚めぬ須磨の関守(源兼昌)」、「これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関(蟬丸)」の二曲をご披露いただき、拍手喝采の中、会場のボルテージも一気に上がりました。

続く会員のスピーチは、元文部科学省ご勤務で、この春から吹田の大和大学に工学部を設置するため関西勤務となった泉紳一郎さん(24・理3)から、関西生活を楽しみにしているという着任のご挨拶をいただきました。

次いで元芦屋高校校長、神戸松陰女子大学教授として長く理科教育に携わられた加藤巡一さん(14)から、現在の小学校教育では理科の実験が準備がかり、危険だとして避けられていることから、これではならじと阪急六甲駅前に一室を借り、小学生対象に少人数での理科の「実験広場」を、年金も投じて運営しているという、感銘を受けるお話をいただきました。



(加藤さんは、2016春の叙勲で学校教育への功労から瑞宝小綬章を受章)

また、「国宝松江城秘話 誇り高きのぼせもん」の著者で松江から駆けつけていただいたゲストの山口信夫さん(奥様が16期)から、「何故、今、松江城が残っているのか? 全国で12城しか残っていない中で、松江城だけが廃城、売却の嵐の中を元藩士高城権八を中心とする市民運動の結果で残った」が、このことを知らない市民が多すぎることを残念に思っこの本を書いた。皆さんも是非後世に語り継いで欲しいというお話を頂戴しました。山口さんには松江城周辺で歌われたなつかしい「オンジョ取(釣)り」の歌も美声でご披露いただきました。有り難うございました。

更に、元東福寺宗務総長の青木謙整さん(5)から、東福寺にある紅葉2千本を朝日テレビの久米宏の番組でライトアップで放映したところ拝観客も収入も一挙に増え、「もみじ和尚」と呼ばれるようになったというお話を、ユーモアを交えてご紹介いただきました。

こうして、例年にも増して話題も豊富だった本年度の総会懇親会も、名残りは尽きぬ中、全員参加で

校歌二曲を斉唱した後、最後の万歳三唱のご発声は田中一男幹事(11)をお願いしました。宍道湖一周で2・3年連続学年1位だった思い出も披露いただきながら、力強く音頭をとっていただき、無事、盛況裡にお開きとなりました。青木さんからは、正しい万歳三唱の作法のご指導もあり、笑顔のうちに来年への課題とさせていただきました。



最後に、今年も松本潤副会長の臨機応援の名司会のお蔭で、楽しく過ごすことができたことを付記して感謝に替え、報告を終えます。

以上

■総会・講演会・懇親会を支えていただいた皆さんを下記に紹介し、御礼に替えます。

(敬称略)○総括：渡辺悟(20)○第一部司会：三好資子(20)○第二部司会：松本耕司(16)○第三部司会：松本潤(23)、補佐 福岡則博(26)・松村聡(26・理5)、新宮富美子(27)○中央電気倶楽部担当：松本潤○受付・会計：池田喜美代(19)、三好資子・物種慶子(20)、鶴羽孝子(22)、新宮富美子・木田京子(27)、藤本育子(32)、富岡幸子(35)○会場設営・案内：梅木隆志(16)、岩田一志(19)、小敷賀健二(20)○来賓担当：松本耕司、渡辺悟 ○スライド制作：押田良樹(11)○映像音響・録音・照明：松村聡、宍道弘志(31)、浅沼吉正(32)○カメラ：岡久夫(17)、小田一美(18)、内藤善夫・村田貢(22)、安達宏昭(43)○書籍販売：大浦綾子・大浜緑・木山洋子(22)

総会議事(1) 近畿双松会 活動事業報告

2015(平成27)年度 (総会以降)

11月	29日	(日)	平成27年度「総会・講演会・懇親会」 (於：中央電気倶楽部、参加者はゲストを含め113名) (講演は清水伸夫氏(20) 松江市教育長) 演題は「松江城国宝指定と今後のまちづくり」
	"	"	平成27年度「会報」の編集開始
12月	9日	(水)	第36回近畿双松会ゴルフ(秋季)(参加11名、於：枚方国際)
1月	11日	(月)	事務局会議&有志新年会開催(新年度役員会懇親会準備)(参加18名)
	30日	(土)	平成28年度新年役員懇親会(新年度方針確認)(参加15名)
3月	19日	(土)	第9回落語鑑賞会(トリイホール・参加21名)
	26日	(土)	事務局会議開催(新年度事業方針打ち合わせ)
	28日	(月)	松江北高野球部大阪遠征応援(於：八尾高校、参加6名)
	31日	(木)	平成27年度会報の発行
	"	"	平成27年会計年度終了

2016(平成28)年度

4月	1日	(水)	平成28年度事業・会計開始
	9日	(土)	平成28年度事業計画ならびに平成27年度会報の発送
	15日	(土)	第5回里山歩くぞハイキングin箕面“リベンジ版”(参加8名)
5月	31日	(火)	第37回近畿双松会ゴルフ(春季オープン)(参加21名、武庫ノ台)
7月	24日	(日)	第11回文楽鑑賞会(参加28名、於：国立文楽劇場)
8月	1日	(月)	インターハイ陸上競技応援(岡山)(参加12名・近畿から6名) ◆福田翔子選手が女子800mで松高・北高通じ61年ぶりのチャンピオン
	4日	(木)	役員改選の意向確認業務を開始(2年に一度)
9月	3日	(土)	事務局会議開催(H27年度監査&秋季事業の打ち合わせ)
	8日	(木)	平成28年度総会懇親会の案内を発送
	25日	(日)	第11回歴史ウォーキング「真田丸の故地を訪ねて」(参加27名)
10月	15日	(土)	東京双松会総会に松本会長表敬出席
	23日	(日)	第6回里山歩くぞハイキング 「浄瑠璃寺、岩船寺、当尾の里の石仏を訪ねて」(参加17名)
11月	12日	(土)	松江北高創立140周年記念双松会総会に松本会長出席
	23日	(水)	事務局会議開催(総会懇親会最終打ち合わせ)
	27日	(日)	平成28年度「総会・講演会・懇親会」 (於：中央電気倶楽部、参加者はゲストを含め116名) (講演は清原正義氏(16) 兵庫県立大学学長) 演題は「大学は変わるか?・・兵庫県立大学の試みと学長の苦労話」
	"	"	平成28年度「会報」の編集開始
12月	8日	(木)	第38回近畿双松会ゴルフ(秋季)(参加8名、於：武庫ノ台)
1月	7日	(土)	事務局会議&有志新年会開催(参加23名)
2月	4日	(土)	平成29年度役員会(新年度方針確認)(参加21名)
3月	11日	(土)	事務局会議開催(新年度事業・収支計画の詳細検討)
	25日	(土)	(予定)第10回落語鑑賞会(トリイホール・参加25名)
	29・30日	(水・木)	(予定)松江北高野球部大阪遠征応援(於：八尾高校、箕面東高校)
	31日	(金)	平成28年度会報の発行
	31日	(金)	平成28年会計年度終了

◆HPアクセス件数 2017.3.9 現在 34,735 件 (前年+ 3,772 件)
(2016.3.15 現在、30,963 件)

総会議事(2) 近畿双松会 会計・監査報告

2015 (平成27)年4月1日～2016 (平成28)年3月31日

(単位：円)

収入の部		支出の部	
◎ 前期繰越金	1,505,702	◎ 支出計	2,100,761
◎ 収入計	2,329,557	・ 通信費	206,564
・ 平成27年度、運営費支援収入	695,000	・ 印刷費	80,656
・ 同、寄付・広告収入	292,000	・ 事務費	160,340
・ 同、総会懇親会参加費	839,000	・ 郵便、銀行手数料等	26,590
・ 同、諸行事参加費収入	451,557	・ 平成26年度会報費	294,400
・ H28年度、役員会会費収入	52,000	・ 平成27年度、総会懇親会費	846,383
		・ 同、諸行事支払い	436,827
		・ 平成28年度、役員会会議費	49,001
		◎ 次期繰越金	1,734,498
		・ 内訳	
		(郵便貯金振替残)	1,714,775
		(郵便貯金)	50,011
		(現金)	▲30,288
◎ 総合計	3,835,259	◎ 総合計	3,835,259

(注) 繰越金前年比 (＋) 228,796

上記のとおり報告いたします。

事務局長 (副会長) 渡辺 悟 ㊞

監査の結果、正確に処理・記帳されていることを認めます。

2016 (平成28)年9月3日

監事 梅木 隆志 ㊞

監事 物種 慶子 ㊞

総会議事(3) 2016(平成28)年度 近畿双松会役員

2016/11/27 総会承認

役	期	氏 名	役	期	氏 名
常任顧問	高 7	山 本 雅 昭	常任幹事	高 18	小 田 一 美
常任顧問	高 11	押 田 良 樹	常任幹事	高 19	岩 田 一 志
			幹事	高 19	池田喜美代
会長	高 16	松 本 耕 司	常任幹事	高 20	山 崎 麻 里 子
			(新)常任幹事	高 20	小数賀健二
副会長	高 16	梅 木 隆 志	常任幹事	高 22	村 田 貢
副会長(兼)	高 20	渡 辺 悟	(新)常任幹事	高 22	内 藤 善 夫
事務局長			(新)幹事	高 22	大 浦 綾 子
副会長	高 20	三 好 資 子	常任幹事	高 23	松 本 潤
			幹事	高 23	松 本 幸 子
監事	高 20	物 種 慶 子	幹事	高 24	糸 原 直 彦
(新)監事	高 22	鶴 羽 孝 子	(新)幹事	高 24	吉 城 聖 顕
			幹事	高 24・理 3	岩 間 令 道
常任幹事	中 68	荒 銀 昌 治	(新)幹事	高 24・理 3	泉 紳 一 郎
幹事	中 68	青 戸 元 也	幹事	高 26	福 間 則 博
幹事	高 1	荻田運三郎	(新)幹事	高 26・理 5	松 村 聡
幹事	高 2	久保田幸雄	幹事	高 27	新宮富美子
幹事	高 3	緒 形 公 士	常任幹事	高 29	廣 瀬 弘 美
常任幹事	高 5	山 田 稔	幹事	高 30・理 9	千 葉 潮
幹事	高 6	田 村 稔 久	常任幹事	高 31	宍 道 弘 志
常任幹事	高 7	廣 政 俣 彦	幹事	高 31	小 林 満
幹事	高 8	山 崎 杲	幹事	高 31	西 村 英 明
幹事	高 9	清 水 良 子	幹事	高 32	藤 本 斉 子
常任幹事	高 10	佐 和 田 丸	幹事	高 32	浅 沼 吉 正
幹事	高 11	田 中 一 男	幹事	高 32	木 村 滋 樹
幹事	高 12	萩 野 貫 悟	幹事	高 33	柳 井 利 明
幹事	高 13	永 江 幹 雄	幹事	高 34	細 田 昌 幸
常任幹事	高 14	加 藤 巡 一	幹事	高 34	山 岡 雅 仁
常任幹事	高 15	金 坂 喜 好	常任幹事	高 35	富 岡 幸 子
幹事	高 15	安 達 和 彦	幹事	高 36	森 口 次 郎
常任幹事	高 16	土 田 和 男	幹事	高 43	安 達 宏 昭
幹事	高 16	三 成 宏 二			
常任幹事	高 17	岡 久 夫			
					以上 59 名

平成28年度 総会・講演会・懇親会 出席者名簿

ご来賓

	卒業期	卒業年	氏名	所属等
1	高23	S45	河 原 一 朗	双松会 副会長(バスケット部)
2	高16	S40	金 平 憲	双松会 幹事長(母衣小・附属中)
3	高26(理5)	S50	泉 雄 二 郎	松江北高校校長(附属小・松江一・バスケット部)
4	高62	H23	堀 江 玲 美	松江北高校教諭 双松会校内幹事
5	(松江商業)		伊 藤 征 治	近畿松江会 会長(北堀小・松江一)
6	(松江高専)		竹 谷 奨	近畿松江会 幹事長(八束小・八束中)

会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ
7	中63	S18	肥 塚 隆 正		千駄谷第一	旧松中	
8	中68	S23	青 戸 元 也		島根師範付属小	旧松中	剣道・テニス部
9	中68	S23	荒 銀 昌 治		広瀬町小	旧松中	
10	高1	S25	伊 藤 雅 義		来待小	旧松中	生物部
11	高1	S25	田 端 要 子	伊豆賀	安来小	松江女学校	
12	高2	S26	久 保 田 幸 雄		川津小	旧松中	バレーボール部
13	高5	S29	青 木 謙 整		大原郡佐世小	大原郡佐世中	
14	高5	S29	寺 本 尚 由		朝日小	松江三	陸上部
15	高6	S30	荻 野 克 彦		富山(大田)	富山(大田)	化学部
16	高6	S30	田 村 稔 久		北堀小	松江一	
17	高6	S30	森 岡 敏 眞		母衣・西郷・雑賀 (引揚げ時、大連)	松江二	ユネスコ・写真・英研
18	高7	S31	青 戸 俊 夫		生馬小	生馬中	新聞部
19	高7	S31	山 本 雅 昭		恵曇小	恵曇中	バレー部
20	高8	S32	山 崎 晃		太田・久利小	松江二	
21	高9	S33	田 中 英 明	小立	乃木小	松江三	柔道部
22	高9	S33	木 村 八 重 子	木山	母衣小	附属中	ソフトボール部
23	高9	S33	佐々木悦子	岡部	徳島市立津田小	松江一	
24	高9	S33	佐藤早智子	松村	雑賀小	附属中	花道・手芸部
25	高9	S33	清 水 良 子	松尾	北堀小	松江一	化学分析班
26	高10	S34	面 白 紘		本庄小	本庄中	サッカー部
27	高10	S34	佐 藤 菁 治		大野小	大野中	
28	高11	S35	新 谷 勇 人		北堀小	附属中	化学分析
29	高11	S35	小 久 江 良 雄			松江四	

平成28年度 総会・講演会・懇親会 出席者名簿

会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ
30	高11	S35	押 田 良 樹		雑賀小	松江四	軟式テニス・図書
31	高11	S35	田 中 一 男		白潟小	松江三	宍道湖一周2・3年連続学年1位
32	高11	S35	畑 田 稔		附属小	附属中	卓球部
33	高11	S35	村 尾 俊 治		雑賀小	松江四	絵画部
34	高12	S36	萩 野 貫 悟	筒井	揖屋小	東出雲中(揖屋)	
35	高13	S37	永 江 幹 雄		母衣小	松江二	化学分析
36	高13	S37	水 田 昭 子	大村	白潟小	松江三	書道部
37	高13	S37	山 下 俱 子	今井	乃木小	松江三	美術部
38	高14	S38	加 藤 巡 一		附属小	松江一	化学分析
39	高14	S38	木 村 修 芳		修立(鳥取)	附属中	
40	高14(山口高)	S38	小 泉 勝 是		北堀小	松江一	
41	高14	S38	木 幡 晃 正		宍道小	附属中	陸上部
42	高14	S38	三 好 洋 二		津田小	附属中	美術部
43	高15	S39	安 達 和 彦		佐太小	附属中	バドミントン部
44	高15	S39	金 坂 喜 好		大野小	大野中	
45	高15	S39	佐 藤 修 介		内中原小	松江一	新聞部
46	高15	S39	真 庭 功		益田・吉田小	附属中	放送部
47	高16	S40	井 上 伸 久		川津小	松江二	
48	高16	S40	梅 木 隆 志		森山小(下字部尾分)	美保関北中	陸上部
49	講師・高16	S40	清 原 正 義		北堀小	附属中	陸上部
50	高16	S40	佐々木康雄		母衣小	松江二⇒一	剣道部
51	高16	S40	松 本 耕 司		本庄小	本庄中	陸上部
52	高16	S40	森 藤 哲 章		広瀬小	広瀬中	軟式テニス同好会
53	高16	S40	山 田 敬 子	矢壁	松原(浜田)・川本・益田	益田東中・浜田二中・浜田高校	美術部
54	高16(松江)	S40	山 口 槇 子	中島	川津小	松江二	バドミントン部
55	高17	S41	岡 久 夫		法吉小	松江一	陸上部
56	高17	S41	柏 木 薫		北堀小	松江一	美術部
57	高17	S41	岩 本 眞 左 子	万波	北堀小	附属中	合唱部
58	高18	S42	石 賀 誠 一 郎		兵庫・豊岡小⇒北堀小	松江一	陸上部
59	高18	S42	岩 本 充 義		附属小	附属中	
60	高18	S42	太 田 善 博		安来小	安来一	

会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ
61	高18	S42	小 田 一 美		内中原小	松江一	天文気象部
62	高19	S43	岩 田 一 志		荒島小 (安来)	安来三	バレー・文芸部
63	高19	S43	千 葉 秀 二		附属小	附属中	
64	高19	S43	新 見 泰 朗		附属小	附属中	
65	高19	S43	万 波 迪 義		附属小	附属中	陸上部
66	高19	S43	池 田 喜 美 代	川原	北堀小	松江一	考古学部
67	高20	S44	小 数 賀 健 二		法吉小	松江一	
68	高20	S44	渡 辺 悟		附属小	附属中	ボート部
69	高20	S44	三 好 資 子	恩田	北堀小	松江一	(帰宅部)
70	高20	S44	物 種 慶 子	北脇	本庄小	附属中	
71	高21	S45	野 津 一 雄		内中原小	松江一	
72	高22	S46	実 重 祐 二		安来小	安来一	
73	高22	S46	内 藤 善 夫		朝日小	附属中	陸上部
74	高22	S46	村 田 貢		西郷小	西郷中	バンド活動 早弁クラブ
75	高22	S46	大 浦 綾 子		北堀小	松江一	機械体操部
76	高22	S46	大 浜 緑	宮本	本庄小	本庄中	華道部
77	高22	S46	木 山 洋 子	平田	三成・上山佐・広瀬小	広瀬・西郷中	
78	高22	S46	鶴 羽 孝 子	石橋	持田小	松江二	
79	高22	S46	西 村 紀 子	松本	附属小	附属中	茶道部
80	高23	S47	近 藤 文 雄		安来・赤江小	安来三	サッカー部
81	高23	S47	松 本 潤		安来小	安来一	
82	高23	S47	森 脇 泰 雄		内中原小	松江一	無線部
83	高23	S47	和 田 邦 孝		津田・内中原小	松江一	硬式テニス部
84	高23	S47	内 藤 み よ 子	石橋			
85	高23	S47	松 本 幸 子		母衣小	松江二	バドミントン部
86	高23	S47	山 口 紀 子	宮崎	内中原、浜田松原、温泉津、木次小	木次・川本・松江一	生物部
87	高23	S47	吉 岡 恵 子	増本	広島西条小、邑智郡田所小、安来小	安来一	生物部
88	高24(松江)	S48	糸 原 直 彦				
89	高24	S48	吉 城 聖 顕		内中原小	松江一	(現、大阪学生会館館長)
90	高24	S48	徳 田 完 二			海士中	

平成28年度 総会・講演会・懇親会 出席者名簿

会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ
91	高24(理3)	S48	泉 紳 一 郎		附属小	松江一	バスケット部
92	高24(理3)	S48	岩 間 令 道		附属小	松江一	
93	高26	S50	川 谷 徳 彦				
94	高26	S50	周 藤 達 夫		北堀小	松江一	社研
95	高26	S50	福 間 則 博				サッカー部
96	高26	S50	前 羽 香 江	幡	附属小	附属中	JRC
97	高26(理5)	S50	松 村 聡		北堀小	松江一	
98	高27	S51	木 田 京 子	能海	本庄小	本庄中	
99	高27	S51	新 宮 富 美 子	新川	母衣小	松江二	
100	高27	S51	松 田 稚 子	永島	意東小	東出雲中	硬式テニス部
101	高28	S52	赤 井 真 一 郎		母衣小	松江二	硬式庭球部
102	高29	S53	金 田 康 嗣		附属小	附属中	陸上部
103	高29	S53	田 中 年 恵	森広	母衣小	松江二	体操部
104	高30	S54	杉 原 伸 治		附属小	附属中	
105	高31	S55	宍 道 弘 志		内中原小	松江一	弓道部
106	高32	S56	浅 沼 吉 正				
107	高32	S56	木 村 滋 樹		内中原小	松江一	硬式テニス部
108	高32	S56	田 黒 公 司		海士・知々井小	海士中	
109	高32	S56	藤 本 斉 子	藤原			
110	高35	S59	富 岡 幸 子	三和	七類小	美保関北中	
111	高38	S62	長 谷 川 浩 之		白潟小	松江三	野球部
112	高43	H4	安 達 宏 昭		内中原小	松江一	バドミントン部

学生ゲスト

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ
113	高66	H27	安 部 か ぐ や		附属小	附属中	合唱部
114	高66(理45)	H27	吉 岡 佐 希 子				百人一首カルタ
115	高67(理46)	H28	中 川 創 平		川津小	松江二	パソコンサイエンス部

ゲスト

	卒業期	卒業年	氏名	
116	(松江)		山 口 信 夫	国宝松江城秘話「誇り高き のぼせもん」 著者

開会ご挨拶
近畿双松会 会長
松本 耕 司 (16)



皆様 こんにちは。

ただ今の会長を仰せつかっております16期の松本耕司でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は当たって欲しくない天気予報が当たってしまいました。しかし、お足もとの悪い中を、こうして多数の皆様にお集まりいただき、総会が開催できましたこと、真に嬉しく、心から御礼を申し上げます。

ご来賓、講師、ゲストの皆様には、まずもって高い席からではございますが、お運びを賜りましたこと、真に有り難く厚く御礼を申し上げます。

本年は母校創立140周年のめでたい年で、加えて高校日本一が二人も誕生するという記念すべき年になりました。今日の総会も、その関係でご紹介すべきことも多く、私の挨拶も手短かに終わりたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

二点だけ、申し上げさせていただきます。

2週間前の松江での140周年記念式典は多数のご参加があって盛況の裡に終了し、私もあらためてその歴史の重さを痛感いたしました。まさしく、お互いのそれぞれの青春が、そこにあった訳でございます。その母校が、折々の時代の波に立ち向かいながら「こんにちも厳然としてそこにある！」ことを、本当に有難く嬉しいことだと強く感じました。

我々双松会の活動も、「北高があればこそ」の話でございますので、「現在の松江北高」にもっと関心を持ち、応援しなければならないなと強く思いました。

生徒数が減り、我々の時代からすれば5割から7割の人数という条件の中で、本当によく頑張っているなと思います。泉校長先生を始めとする諸先生方のご努力、そして何よりも生徒諸君の頑張りに心から敬意を表したいと思います。

松江の式典の席上でも、「もっと応援しよう！」と強く申しあげて大阪に帰ってまいりましたので、近畿の皆様にも高い席からではございますがお呼びかけをさせていただき、ご賛同、ご協力をいただければ真に有難く存じます。

もう一点は、この夏は26期の皆様が松江での還暦同窓会を開催されたとお聞きしていますが、我々の年代も気がつけば古稀を迎えたということになります。

何とかこの近畿の地で繋がってきた「縦の糸」である「近畿双松会」も、いよいよ20期台以降の皆様に「後事を託する時」が近づいていることを強く感じております。これから20期台以降の皆様には、今まで以上に何かとお願いをすることも増えてまいりと思いますが、その節は、何卒よろしくお願い申し上げます。

そのためにも、この会は「楽しくなごやかな会」でありたいと、心から願っております。これからの時間は、外の雨を吹き飛ばすような楽しい会にしたいと思いますので、皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご参集いただきました皆様への御礼、朝早くからご協力をいただいている役員の皆様への感謝を申しあげ、更には、お集まりのすべての皆様の益々のご多幸をお祈り申しあげまして、簡単ではございますが、開会のご挨拶とさせていただきます。有り難うございました。

来賓ご挨拶
双松会 副会長
河原 一 朗 (23)



皆様 こんにちは。

本日は近畿双松会総会のご開催、おめでとうございます。本来は金津任紀会長(16)がご挨拶すべきところですが、所用欠席のため、副会長の私がご挨拶をさせていただきます。

私は23期ですが、平成26年度まで北高の校長をさせていただきました関係で、こちらにも2度おうかがいをいたしました。その際には前押田会長様(11)をはじめ多数の皆様にご大変お世話になりましたこと、あらためて御礼を申し上げます。

近畿双松会の総会に参加させていただいて一番感じましたことは、本日もそうですが、若い方々のご参加が多いことと、また、シニアとも言うべき(笑)先輩の皆様が大変お元気であるということでした、そのことが強く印象に残っております。

さて、先ほど松本会長も触れられましたが、去る11月12日(土)には松江北高創立140周年記念式典をおこないました。式典には350名とも400名とも言われる多数のご参加をいただき、盛大に終了いたしました。その際には松本会長様、押田前会長様、また和田亮介元会長様(1)にもご出席をいただきまして大変有り難うございました。

後ほど、ビデオ等でご紹介されると聞いておりますので項目だけにとどめますが、記念総会では24期のカゴメ(株)寺田直行社長の講演があり、また、アトラクションでは北高放送部の生徒が見事な司会ぶりを見せてくれました。

学校では、起雲館資料室やお茶室を開放し、茶道

部員によるお茶席を設けたりいたしました。また、式典翌日には生徒と卒業生による交流コンサートを開いたり、野球部は鳥取西高校(旧制鳥取中学の後身)と、生徒のみならずOBも招待交流試合をおこなうなどの催しをおこないました。

こういった式典や催しができましたのも140年の歴史の中で卒業生の皆様のご活躍があったからこそと思っております。私もこの学校の卒業生の一人として誇りにも感じ、あらためて副会長としての責任の重大さも感じている次第でございます。

また、ご承知のように140周年記念事業として、校歌にもある「世界の人たれ」を実践するため、ただ今、「世界の人たれ北高生!基金」へのご協力をお願いしております。グローバル人材を育成するためのこういった北高の活動に対し、双松会も応援してまいりたいと考えておりますので、是非皆様のご協力をいただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本日は140周年記念「松江北高校十年史」をお配りさせていただきました。併せて、同窓会名簿「双松」(平成28年度版)も発刊いたしました。これはまだいくらか余裕もあるようですから、ご希望の場合は北高事務局までお申し出くださればと存じます。

十年後の平成38年には150周年を迎えます。母校松江北高が150周年、200周年と隆々と発展していけるよう、双松会も頑張っていきたいと思えます。近畿双松会の皆様にも是非ご協力を賜わりますようお願いを申し上げまして、簡単ではございますが私からのご挨拶とさせていただきます。

本日の総会、誠にありがとうございます。

来賓ご挨拶
松江北高校校長
泉 雄二郎
(26・理5)



皆様、こんにちは。

皆様にお目にかかるのは三回目になります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ただ今までのお話にもありましたように、11月12日(土)には松江北高校創立140周年記念式典が300名を超える多数の同窓皆様にご臨席賜わり、盛大におこなわれましたことを、まずもってご報告申し上げます。近畿からも沢山の皆様にお出かけをいただきました。有り難うございました。

「礎 ～先駆者よ、回せ歴史の歯車を
鳴らせ未来への汽笛を」

これは本年度の学園祭で生徒たちが掲げたテーマです。現1年生が新制高校70期生です。旧制松江中学の歴史が70年ですので、140周年ということは、旧制の歴史に新制の歴史が漸く追いついたことになります。

「今、私たちは転換点に立っている。次の70年へ、来るべき未来へ、一步踏み出そう。」というのが生徒たちの意気込みです。

本日は放送部が作成しましたビデオで、体育系、文化系、それぞれ本年度日本一になった生徒を紹介します。また音楽各部が合同で奏でます生徒が作成した校歌の140周年記念バージョンもお聞きていただくことにいたしました。

彼らのこの姿を通して、今、赤山の地に流れている「風」、「空気」を感じとっていただければ幸いです。

明治40年に松江中学校第18代校長の西村房太郎先生が定められました「質実剛健」の校訓は、不易流行を踏まえつつ時代に応じた解釈が必要であります。

「質」は内面を高めること、「実」は社会に貢献する行動力、「剛健」は困難に向かうタフネスさ、であろうと考えております。

後ほど、清原兵庫県立大学学長のご講演にもあらうかと思いますが、今後、教育は大きく変わってまいります。変わろうとしております。

知識の習得を徹底することの上に、「何ができる」ようになるのか。主体性、協働性、創造性を培うための質的転換をめざして、「社会に開かれた教育課程の構築」が強調される時代であります。

この方向性は、先ほど申しあげました質実剛健の解釈と合致すると考えております。

「社会総ぐるみで教育を行う」・・・、これはできそうできて、実行はなかなか困難である指針が示されています。この取り組みには、我々が、教育を受け終えた大人が、教育にコミットすることが必要になってきていると考えております。

「何のため」にか。一つは、生徒のためではありませんが、私が現場にいて感じておりますことは、教員の意識がまだまだ時代についていけないということでございます。

是非、諸先輩皆様にはアドバイスをいただきたいと思っております。皆様には、人生の中で得られた知恵、あるいは人生観を我々に授けていただきたいと思っております。

「それでは、母校に行って何か話してやろうか」という方がいらっしゃいましたら、いつでも教室の扉を開きますので、どうぞよろしくお願いいたします。

140周年を期して皆様をお願いいたしました「世界のたれ北高生！基金」には、現時点で500万円に近い浄財を積み上げていただきました。今後、社会、あるいは世界に視野を広げていく生徒たちのための教育プログラム実施のために活用させていただきますと考えております。

どうか引き続き、母校、そして現役生徒たちに対するご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

本日は、近畿双松会総会のご盛会、誠にめでとうございます。

▼国公立大学(現浪計188名合格)

平成28年3月31日

東京大学4名、京都大学4名、国公立医学科8名を含む188名の生徒が国公立大学に合格しました。そのうち、難関10大学(北海道大・東北大・東京大・東京工業大・一橋大・名古屋大・京都大・大阪大・神戸大・九州大)の合格者は25名でした。

また、私立大学の合格者数は、延べ295名でした。



▼松江北高等学校創立140周年記念事業

平成28年4月～

高校創立140周年を記念し、年間通して各種事業が行われました。11月12日にはホテル一畑にて、300名を超える会員が集まって記念総会が盛大に行われました。同窓会名簿「双松」及び「松江北高等学校10年史」の発刊、「世界の人たれ北高生！基金」創設ほか、野球部招待試合、生徒・OB交流ライブの開催など、様々な事業が執り行われました。



▼島根県高等学校総合体育大会『総合優勝2連覇』

平成28年5月27日～6月5日

第54回島根県高等学校総合体育大会が開催されました。各部活動が日頃の練習の成果をさまざまなカタチで表現し、男子総合3位、女子総合3位という成績を納め、北高の総合力で『総合優勝2連覇』をつかみとりました。



▼福田翔子さん(3年)、日本陸上競技選手権大会/ 全国高等学校総合体育大会『2大会制覇』達成

平成28年6月24～26日／7月28日～8月2日

6月24～26日に愛知県で開催された第100回日本陸上競技選手権大会に福田翔子さん(3年)が出場し、女子800mで優勝しました。

また、7月28日～8月2日に岡山県で開催された全国高等学校総合体育大会でも女子800mで優勝を飾り、2大会制覇を達成しました。



▼第40回全国高等学校総合文化祭

小倉百人一首かるた部門 読手コンクールの部 最優秀賞

平成28年8月1日～8月3日

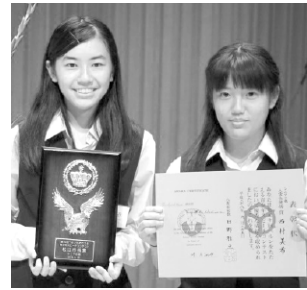
広島県で開催された小倉百人一首かるた部門読手コンクールの部で、百人一首かるた部の寺井萌乃さん(3年)が、昨年の優秀読手を上回る最優秀読手に選ばれ、「日本一」の称号をつかみとりました。8月12日には日本一の報告に知事室を訪問しました。



▼快挙！第50回ヘルンをたたえる青少年スピーチコンテスト（英語）

平成28年9月25日

校内予選を勝ち抜き、島根県大会に出場した葛尾真衣さん（1年）が松江市長賞&アイルランド大使賞（第1位）、西村美希さん（1年）が八雲会奨励賞（第6位）を受賞しました。50回の記念大会で優勝をつかんだ葛尾さんは、2017年3月にアイルランドへ派遣され、現地でスピーチを披露します。



▼第1回松江北高校教育フォーラム 開催

平成28年10月29日

P T A活動として今年度新たに企画され、生徒・保護者・地域・大学生・教職員など総勢150名が参加しました。テーマは『～輝望発信～』。「21世紀の社会で大切にしたい力」に焦点を当てた基調講演ののち、性別や年齢、職業などの枠を超え、さまざまなテーマについて意見交換をおこなう「ラーニングカフェ」を実施しました。



▼拠点校リーダー教員事業 中間報告会

平成28年11月16日

島根県では、学習者の主体的・能動的な学びを実現するため、各教科のリーダーとなる教員を養成する取り組みがおこなわれています。本校からは、3名（国語科・英語科・数学科）が「リーダー教員」に推薦され、島根県の「拠点校」として県内の「リーダー教員」の中核となり、研究授業や研修会などがおこなわれました。



▼学習環境の整備 ～設備の更新・新設～

平成28年6月 / 12月

P T Aの事業により、6月に「全教室のエアコン更新」と「実習教室のエアコン新設」を実施しました（物理実験室・化学実験室・生物実験室・調理室・多目的室・進路相談室の計6箇所）。また昨年度、全教室にプロジェクター・実物投影機が設置されたことを受け、12月には全教室に遮光カーテンも導入。「学び」の環境を整え、生徒の進路実現を支援しています。



▼書道部「高等学校書道パフォーマンスグランプリ 島根県予選」優勝！ ～中四国大会へ出場

平成29年1月7日

12月17日（土）におこなわれた島根県予選を勝ち抜き、岡山県でおこなわれた決勝大会に出場しました。中四国地方で地区予選を勝ち抜いた9校と、特別選抜枠の1校を合わせた全10チームが出場し、「書道」を通してそれぞれの持ち味を存分にパフォーマンスしました。





全員集合記念写真





高6・7・8・10期の皆さん



高9・12・13期の皆さん



高11・14期の皆さん



高15・17・43期の皆さん



清原学長、ゲストの山口さんと高16期の皆さん



泉校長と高17・20・21・26期の皆さん



高18・19期の皆さん



高22期の皆さん



河原双松会副会長と高23・27期の皆さん



高24・28・29・30期の皆さん



高32・35・38期と学生ゲスト(66・67期)の皆さん



ゲストの山口信夫さん



一部総会司会の三好資子さん(20)



三部懇親会司会の松本潤さん(23)



百人一首朗詠の堀江玲美先生(62)









又、来年会いましょう

「大学は変わるか?・・ 兵庫県立大学の試みと学長の苦労話」

講師：清原正義氏（16・兵庫県立大学学長）



本題に入る前ですが、松江の自宅が旧川津校舎に近いこともあって、校舎に沿って流れていた朝酌川で帰省のたびによく釣りをします。魚も野鳥も、今も沢山の自然が残っています。校舎の隣の市営グラウンドで、三年間陸上部で練習をしました。中でも先年お亡くなりになった大熊喜三郎先生には本当にお世話になりました。知識ではなく「人間」を教えていただいたと思います。

松江も北高も陸上部や先生や友人も、すべてがなつかしく感謝の思いで一杯です。今日はそういう気持ちも込めてお話ができれば幸いです。



北高時代の陸上部練習風景、左端

1. 変わる大学

今、大学は下記の問題にさらされています。

(1)18歳人口の減少

日本の総人口の減少の中で、18歳人口も2018年より減少に入り、今、沢山ある大学が生き残れるかという、所謂、大学の「2018年問題」。

(2)社会的ニーズの変化(社会人基礎力の養成)

激しい社会変化の中で、もっと厳しく「社会人基礎力(人間力)」を養成して欲しいと言う、今までのカリキュラムにはない強い要望にどう応えていくかの大変むづかしい問題。

(3)国公立大学の法人化(財政的制約)

年々、交付金は減らされ、財政的制約は厳しくなっています。文科省は国立大学の横並びを排し、「研究型」、医・外国語などの「特色型」、「地域貢献型」に分類し、それによって予算も配分しています。国立86大学中、地域貢献型大学が55もあり、我々、地域に根ざす公立大学はどうしたらいいのか? 懸命に考えざるをえません。

(4)国際化、グローバル化

今、日本人学生が留学する数は極端に減少していて、文科省も必死で呼びかけていますが成果はあが

●清原正義氏

北堀小・附属中・昭和44年京都大学教育学部卒、東京大学大学院修士・博士課程修了。教育学博士。専門は教育行政・学校経営・学校組織。平成10年姫路工業大学教授。平成22年三つの大学を統合した「新生・兵庫県立大学」のかじ取り役として現職に就任。地域貢献度では全国有数の評価を受ける大学に育て上げるなど活躍中。平成27年より(一社)公立大学協会会長。北高・京都大学では陸上競技部で奮闘。

＜平成29年4月より、島根県立大学理事長兼学長に就任予定。＞

りません。一方、海外からの留学生はアジア、特に中国からの留学生が増加しており、このアンバランスにどう取り組むかの問題。

(5) 教育改革、高大接続(入試)改革

「高校教育改革」と「大学教育改革」とそれを繋ぐ「入試改革」を、一つのポリシーで三位一体で改革していく政策で、この5年ぐらいの間でかなりの改革がなされ、大学にとっては「どういう人材を育てようとするのか」という問題につながってきます。

今、入試センター試験における記述式の導入が話題を呼んでいます。文章をコンピュータで採点できない部分は各大学で補足採点をするということになりそうで、これも、真剣に議論をしているところです。

(6) 地域への貢献

国立大学だけでなく、当然公立大学も私立大学も地域貢献をめざして頑張っています。「COC」(Center of Community、地(知)の拠点整備事業)とか、「COC」(文科省の補助金の名前)で、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業で予算を配分されており、大学がプロジェクトをつくって応募し、それに補助金がつくという形です。

今、人材は都会に流出していて、兵庫県、神戸市ですら若者の流出は続いていますから、県内、地元に残るような取り組みを行う大学に、こんどは総務省が補助金をつけるのが「COC+」で、それへの対応も大きな課題です。

2. 変わらない大学

大学が変わらない役割も勿論あります。

(1) 高等教育機関としての役割や、学校教育の最終の役割(略)

(2) 大学教員の悩み(教育か、研究か)

どちらが優先するのか？の悩みは今後も変わらないでしょう。改革をどんどんやらなければいけないなら、私の研究はどうなるのか？と思う先生は多くいます。でも、学生のニーズ、社会の期待にももっと目を向ける必要があります。

(3) 大学教員の自己意識(教授会、研究、大学運営)

教員の意識も、一旦形成された意識はそう簡単に

は変わらないでしょう。その意識改革が必要なことは言うまでもありません。

ただ「教授会」に関して言えば学校教育法が改正され、人事や予算に関する権限はなくなり、制度面ではひと昔前とは様変わりしています。

3-(1). 学長の苦労話

さて、お求めの「苦労話」は一杯ありますが、個別の人間関係にまつわることが多いので、今日は一般的な話にさせていただきます。

(1) 職務が多岐にわたる

学長の職務は非常に多く、教育に関する大から小までの最終の責任がすべてまわってきます。

その上、法人の理事長でもありますから経営責任があり、予算内に収め、赤字を出すことは許されません。本学も年間運営費120億のうち、どうしても20億は外部資金、寄付などで自力で稼がざるをえませんが、これが一番大変です。

どの大学も、結局人件費を削らざるをえなくなりますが、一方で若い教員の「任期制」など、不安定な雇用で日本の大学が支えられているという、大変危うい状況であると認識しています。

(2) 権限と責任があいまい(略)

(3) 教員は言うことを聞いてくれない

その割には権限と責任も非常に曖昧で、リーダーシップ不足かもしれませんが、先生方もあまり言うことを聞いていただけません。特に自分の利害に関わるようなことではなかなかです。

(4) 学生は学長を知らない

学生が7,000人近くいますが、入学式と卒業式で会うぐらいです。もっと学生と交流したいと思いますが、その時間もありません。

(5) 意見はしばしば対立する(略)

(6) 改革は進まない

大学の各部局、部門の独立性は高く、まとめるのは大変で、執行部内でもしばしば意見は対立します。

改革と言う内容には、それがマイナスになると考える人たちは必ずいるので、何年かけても議論が進まないことはあります。

大学の改革についてはアメリカの高等教育学会の大家であるクラーク・カー博士が、大学の改革は「墓場の引っ越しと同じだ」と言っています。その心は「内部からは変えられない」ということで、真に言い得て妙だと思います。

先ほどの様々な改革は、教員は元より大学関係者すべてに本来業務に加えて新たな負荷をかけるものですから、それをお願いしながら改革をすすめていかなければならないことが、一番の苦労だと言えます。

(7) 外回りが多い

外部の役をしていることもあって、とにかく出張が多く、多い時は週に一回は東京往復がありますし、週二、三回のことも。「一体、何をしているんだろう」と思うこともしばしばです。

3-(2). 学長に必要なもの

私の体験で言えば一に健康、二に体力、三、四がなく五に「気力」ではないかと思います。休むことができない自転車操業をしているのが学長の日常で、とにかく健康、体力が重要で、気力が萎えたらオシマイということです。「知力」はいらないのかとよく聞かれますが(笑)。

後は「経験」ですね。

4. 補足(資料)

(1) 大学の校数

1965年(昭和40年) 317

2015年(平成27年) 779 (2.5倍)

(国86, 公86, 私607)

(公立はこの間で2倍。看護系、医療系、福祉系が多く、地域に密着した人材を育成)

(2) 学生の人数

1965年(昭和40年) 94万人

2015年(平成27年) 286万人 (3倍)

(3) 進学率(短大を含む)

1965年(昭和40年) 25%

2015年(平成27年) 57% (2.3倍)

(女子進学率56%)

(女性の高等教育の割合も増え、本学でも卒業証書の代表授与も3分の2は女子学生。企業からは卒業時点では女子の方が優秀と言われることも多く、それを認めつつも、男子については30歳の時点で見てやって欲しいとお願いしている)

5. 兵庫県立大学の紹介

(1) 概要

本学は平成16年に神戸商科大学、姫路工業大学、兵庫県立看護大学の3大学が統合して発足してから13年になりますが、まだ前名の方が通りがいいこともある段階です。

従って、キャンパスは兵庫県全域に広がり、北は豊岡から南は淡路まで、佐用町には天文台、三田には恐竜の博物館もあるという多彩さです。

6学部、13の大学院研究科があって、平成19年4月、阪神・淡路大震災22年を期して「減災復興政策研究科」を発足させますので、14研究科になります。

学生数は6,700名(学部5,600名、大学院1,100名)で、公立大学としては首都大学東京、大阪市立・府立大学に続く4番目の大きさと、島根大学とほぼ同規模です。

(2) 特色のある研究・活動(抜粋)

①「コウノトリの野性復帰の研究と実践」

古来から豊岡・但馬地方には沢山コウノトリが棲息していましたが、急激な都市化や農薬の影響があって餌がなくなり、昭和60年代に絶滅してしまいました。それを豊岡の「地域資源マネジメント研究科」が豊岡市と共同でこれに取り組み、ロシアから輸入をして人工の巣で雛から育て、餌を取れる田んぼや湿地もつくり、飛び立って行くまでの実践を20年近く積み重ねています。

今では相当数の成功例があり、全国各地や韓国まで飛んで行くなどの実績を上げています。

②文部科学省「地(知)の拠点整備事業[大学COC事業]の実施」(H25～)

「ひょうご・地(知)の五国豊穰イニシアティブ」

事業として、「日本の縮図」兵庫県の課題に6つのプロジェクトフィールドで取り組み、「地域を育て、学生を育てる大学」をめざす活動に力を入れています。(ひょうご五国とは、摂津・播磨・但馬・丹波・淡路を指す)

学生たちは、兵庫県下のほぼ全域(12自治体)で六つのプロジェクトをおこなっています。過疎になった村や農家の再生や移住の促進、自然の再生、地域の防災・減災、ソーシャルビジネスなどで、先ほどのコウノトリなどの地域資源のマネジメントや、姫路市との産学公連携、淡路島の緑環境保全や未来構想などがその例で、学生たちが楽しんで取り組んでくれているのが、何よりの喜びです。



地域資源の保全と活用

勿論、カリキュラムや単位の面、研究面でもこれを支える仕組みをつくり、最終目的の「自治体と連携して、地域課題に取り組む人材を育て、教育・研究の成果を地域に還元」という社会・地域貢献をすすめています。

③「全国大学の地域貢献度ランキング」3位

こうした学生・教職員が一体となった地域貢献活動が、日経グローバル誌の評価で平成27年度には全国総合3位に順位を上げることができ、私も一生懸命取り組んできただけに大変嬉しく思いました。(H24) 55位⇒(H25)26位⇒(H26) 12位⇒(H27)3位

(3)再び「人間力ある、社会に貢献する人材育成」について

なぜ、こういう社会・地域貢献の活動や実践を一生懸命やるかと言えば、一番の目的の「社会人基礎力(人間力)」をつくるには、「経験する」ことが何よりも大事だと考えたからです。

学生が地域に出て、そこで目的意識的に勉強する

ことは、地域社会のみならず学生自身のためにも、引いては大学の教育にもプラスになるということで、学生の間関力が高まることは経験則からも間違いのないところです。

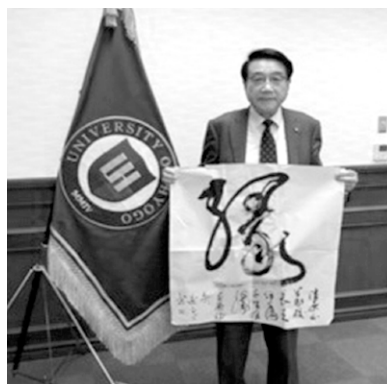
東日本大震災地へのボランティアに出かけた電気専攻の大学院生が大学に帰って「自分がなぜ電気工学の勉強をしなければならないかが初めてよくわかった」と報告し、私は感動をもってそれを聞きました。

やはり、何かのキッカケ、何かの体験が大きく学生の人間力を高めるのは間違いのないことで、我々は実感的、経験的にそれを承知していますが、残念ながら理論的には説明はできていません。それをどう理論化するのかも今後の課題です。

6. 「ご縁」を大事に・・・

なつかしい北高時代の写真と50年経った現在の私の写真を見る時、いつも、まさに「少年老い易く、学成り難し」を実感しています。

又、人生の「縁」ということの大切さも痛感している次第です。



中国の大学の先生から贈られ、お宝にしている「縁」の文字とともに

最後になりますが、これからも今日のこの「ご縁」を大事に、北高を通じての皆様とのつながりも持たせていただきたいと願っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご清聴、有難うございました。

2016(平成28)年度「運営費支援、寄付・広告」ご協力者ご芳名 (敬称略)

近畿双松会は有志の皆様への支援により運営しています。ここにお名前を記して御礼とさせていただきます。

・中63期	肥塚隆正		森岡敏真		神門英明
	坪倉修吉		石原綏子		後藤武久
・中64期	鐘築光紀		小室ナオミ		田中一男
・中68期	青戸元也		島田和子		野津丞
	荒銀昌治	・高7期	青戸俊夫		畑田稔
・中69期	杵築武彦		後藤昌平		村尾俊治
・高1期	飯塚満男		寺本好弘		米澤伸夫
	伊藤雅義		廣政俣彦		今井洋子
	宇藤二男丸		山本雅昭		北村雅子
	荊田運三郎		泉桂子		鈴木洋子
	喜多川治美		玉井洋子		田村廸子
	竹内一郎	・高8期	黒田牧夫		中尾長子
	林原信光		長谷川忠雄		中川陽子
	田端要子		山崎杲	・高12期	萩野貫悟
・高2期	久保田幸雄	・高9期	熱田光信		平塚善明
	作野宏		岩成哲男		藤井紘也
	竹森英二		影山武男		森倫也
	鳥谷芳男		坂本隆男		山本輝夫
	成合茂博		神仁人	・高13期	石川洋美
	石本春枝		澄川光成		安部正毅
	神田田鶴子		宗智海		今井勝治
・高3期	緒形公士		田中英明		岡崎公典
	佐藤藤芳		伴稔也		神田周平
	永井彰		山岡裕明		永江幹雄
	小川伸江		木村八重子		持田勲
・高4期	泉寛治		佐々木悦子		深澤千栄子
	田淵宗明		佐藤早智子		藤田トク子
	藤原小夜子		清水良子		水田昭子
・高5期	青木謙整	・高10期	石倉末広		水野明代
	春日敏邦		面白紘		森脇順子
	勝田守勇		佐藤菁治		八坂洋子
	客野伸		佐和田丸	・高14期	山下俱子
	寺本尚由		清水義男		片山伸雄
	仁宮竜聖		須山耕		加藤巡一
	築武夫		清水小枝子		木村修芳
	山田稔		森本和子		小泉勝是
・高6期	荻野克彦	・高11期	新谷勇人		小幡晃三
	田村稔久		太田厚		小松三樹
	永江秀一		小久江良雄		宮原琢郎
	原卓司		押田良樹		三好洋二

・高15期	森山國久	・高20期	万波迪義	・高24(理3)期	岩間令道	
	新名貴久子		元栄徹	瀬戸口二三子		
	三島幸子		池田喜美代	水野順子		
	安達和彦		大久保章子	飯石浩康		
	金坂喜好		小数賀健二	伊藤博之		
・高16期	佐藤修介	・高21期	金見幸夫	・高26(理5)期	周藤達夫	
	真庭功		浜見良樹	福岡則博		
	井上伸久		原田康二	松村聡		
	梅木隆志		渡辺悟	三浦清		
	神田俊之		佐野和子	・高27(理6)期	木田京子	
・高17期	清原正義	・高22(理1)期	三好資子	・高29(理8)期	新宮富美子	
	佐々木康雄		物種慶子		松田稚子	
	土田和男		山寄麻里子		太田春樹	
	坪倉司郎		高島真二		金田康嗣	
	長野米一		野津一雄		山本修司	
・高18期	松本耕司	・高23(理2)期	花田幸久	・高30(理9)期	田中年恵	
	三成宏二		内藤清志		野津さとみ	
	森藤哲章		内藤善夫		廣瀬弘美	
	石川菖子		村田貢		蓑田久美子	
	田中由美子		大浦綾子		杉原伸治	
・高19期	中安節子	・高24(理3)期	大濱緑	・高31(理10)期	田邊より子	
	西村幸子		木山洋子		小林満	
	浅津民夫		鈴木厚子		宍道弘志	
	岡久夫		鶴羽孝子		・高32(理11)期	木村滋樹
	後藤研三		西村紀子		藤本斉子	
・高20期	岩本眞左子	・高25(理4)期	松下和子	・高33(理12)期	柳井利明	
	木島光子		朝比奈博則		山岡祐子	
	島本妃早美		近藤文雄		富岡幸子	
	原田博子		松本潤		・高34(理13)期	安達宏昭
	宮本由美子		森脇泰雄		・高35(理14)期	以上229名(平成29年3月1日現在)
・高21期	山口悦子	・高26(理5)期	和田邦孝	・高43(理22)期		
	太田善博		今西桂子			
	小田一美		小松久美子			
	稲生喜子		橘千里			
	岩田一志		内藤みよ子			
・高22期	江角健一	・高27(理6)期	西村充子	・高36(理15)期	ご不審の点は事務局までご確認ください	
	佐々木勇二		松本幸子			
	千葉秀朗		山口紀子			
	新見泰隆		吉岡恵子			
	榎原隆		蒔田久美子			

追 悼

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(平成27年11月総会以降、事務局にご連絡のあったすべてを掲載しました)

物故会員

期	氏 名	ご逝去年月日
中 61 期	川 島 普 様 向 日 市	平成 28 年 8 月 17 日
高 1 期	平 山 武 秀 様 京 都 市	平成 28 年 7 月 31 日
高 2 期	永 井 達 也 様 堺 市	平成 28 年 5 月 1 日
高 2 期	高 内 松 夫 様 東 大 阪 市	平成 28 年 8 月 28 日
高 5 期	角 忠 様 交 野 市	平成 28 年 6 月 20 日
高 13 期	成 田 紘 一 様 大和郡山市	平成 22 年 9 月
高 13 期	松 井 暢 子 様 大和郡山市	(不 明)
高 28 期	井 藤 俊 文 様 箕 面 市	平成 26 年 9 月 16 日

●会員の著書紹介

「松江藩のお種人参から雲州人参へ」

板垣衛武さん(高5) 著

松江藩の財政建て直しに大きく貢献した朝鮮人参の栽培に命を懸けた、小村新蔵、茂重父子をモデルにした力作です。父子の苦難の物語ですが「おんぼらー」とした出雲弁が散りばめられた温かみのある作品でもあります。他に石見銀山を題材にした短編3編が収録されています。郷土理解の一冊として、ご一読をお勧めします。

(四六判 326 ページ、1,296 円)

お問い合わせ 山陰中央新報社出版部 0852-32-3420



一富士二鷹三茄子のつづきは何？

初夢に見て縁起がよいもの。一富士、二鷹、三茄子・・・につづきがあるとは知りませんでした。諸説があるようですが、富士は日本一の山、鷹は賢くて強い鳥、茄子は事を「成す」ということで縁起が良いとされているようです。

さて、これにはつづきがあると聞き、後学のため調べてみました。

四扇(しおうぎ)、五煙草(ごたばこ)、六座頭(ろくざとう)と続くとのこと。

扇はその広がりから、財産や子孫の繁栄を示し、煙草は上へ上へあがることから出世を意味します。

そして、座頭とは、琵琶法師の座に所属する剃髪した盲人のことを言い、「毛が無い」ことが

転じて「怪我が無い」ということで縁起が良い意味に取れるとされています。

一富士、二鷹、三茄子、四扇、五煙草、六座頭。これらは互に対応しているとも言われており、それぞれ下記のように対応しているようです。

富士と扇とは末広りの形から、子孫や商売の繁栄を意味している。

鷹と煙草は、上へ上へ上昇していくため、運氣上昇や出世を意味している。

茄子と座頭は、共に「毛がない」ことから、「怪我が無い」とし、家内安全を意味している。

それにしても、縁起の良い言葉が世の中に満ち溢れば、楽しく嬉しいことです。

佐和田 丸 (10)

(報告) 島根県立松江北高校創立140周年記念「双松会総会・懇親会」



報告者：押田良樹 (11)

日時／平成28年11月12日(土) 14時～18時

会場／ホテル一畑

母校は明治9年(1876)「教員伝習校変則中学科」として誕生し、平成28年(2016)に創立140周年を迎え、このほど記念総会・懇親会が開催されました。

その歴史を概括しますと、戦前の旧制「松江中学校」の時代を経て、戦後の学制改革により昭和23年に新制「松江第一高校」として発足、昭和24年(1949)に「松江高校」になり、昭和36年(1961)に生徒数増加対策として松江南高が設立されたことにより現在の「松江北高校」と改称、140年の歴史と伝統を受け継いで今日に至ります。この間、校舎所在地も殿町(明治9～30)、赤山(明治30～昭和24)、川津(昭和24～53)、赤山(昭和53～)と移り変わりました。

そして旧制中学校の最後は69期ですが、平成30年(2018)に卒業する生徒は新制69期ですから、来年、新制の歴史が卒業期数で旧制に漸く追いつくことになります。現在までの卒業生も実に42,000名を超え、あらためて母校の歴史の重みと裾野の広さを強く実感する記念式典となりました。

当日は好天に恵まれ、会場のホテル一畑には300名を優に超える会員が出席し、140周年を祝いました。「記念総会」は物故者慰霊黙祷に始まり、校歌斉唱に続き、金津任紀双松会会長(16)の挨拶、泉雄二郎松江北高校長(26・理5)による母校の近況報告、松浦正敬松江市長の祝辞、功労者表彰(庄司肇前双松会会長(11)など)の順で行われました。



寺田直行カゴメ(株)社長

「記念講演」では、カゴメ(株)社長寺田直行氏(24)が、「カゴメの長期ビジョンとシニアの食育」の演題で、同社の紹介のみならず、参加者の多数をしめるシニアのための健康維持向上に役立つ貴重なお話をされ、会場の共感を呼びました。

続いての「アトラクション」は、放送部の生徒による見事な司会で進行し、生徒が作成した本年度の「北高生活躍ビデオ」では、百人一首かるたの読み手部門で高校日本一となった寺井萌乃さん、陸上競技



金津任紀双松会会長の挨拶



泉雄二郎松江北高校校長の
学校近況報告



松浦正敬松江市長の祝辞



松本耕司近畿双松会会長の
スピーチ



高校日本一の二人、百人一首の寺井萌乃さん(左)、陸上
競技の福田翔子さん(右) (北高放送部制作ビデオより)



懇親会風景

女子800mで日本選手権とインターハイの二冠を達成した福田翔子さん、さらに生徒が作曲した「松江北高校歌140周年記念版」の音楽関係4部による合同演奏が紹介され、「実演」では箏曲部が「合奏曲六段」を披露して、いずれも先輩達の喝采を浴びました。

最後の懇親会は、会場が参加者で溢れ、終始熱気に包まれました。各地区双松会代表者の挨拶では、当会松本耕司会長(16)が先陣を切って登壇、「双松会はさらに学校と生徒の応援に力を入れよう」と会

場に呼びかけました。宴はいつ終わるともなく続きましたが、漸く金平憲双松会幹事長(16)の発声で万歳三唱をし、145周年での再会を約しお開きとなりました。

全体の印象としては、今回は生徒の活動の紹介に力が注がれ、双松会と学校と生徒が一体となった感のある、真に心地のいい記念の会合でした。(詳細・カラー写真は、HPでもご覧ください。)



箏曲部の演奏



万歳風景

■第9回 落語鑑賞会

日時／平成28年3月19日(土)
会場／トリイホール

今回も昨年と同じ千日前のトリイホールで、月例の「島之内寄席」を鑑賞し、出演者の力演に笑いこぼれました。



◆参加者は下記の21名。(敬称略)

清水良子(9)ご夫妻、押田良樹(11)、萩野貫悟(12)、加藤巡一ご夫妻・小泉勝是(14)、梅木隆志ご夫妻・佐々木康雄・松本耕司(16)、岡久夫(17)、三好資子ご夫妻・山嵯麻里子(20)、大浜緑(22)、近藤文雄・山口紀子・内藤みよ子・橘千里(23)、瀬戸口二子(24)

■北高野球部の大阪遠征試合の応援

日時／平成28年3月28日(月)
会場／八尾高校グラウンド



毎年この時期に大阪遠征があることを知り、急遽駆けつけましたが、残念ながら八尾高校に2対4、4対10で連敗しました。次回から野球部OBの皆さま、応援よろしくお願いします。

◆参加者は下記の6名。(敬称略)

木村八重子(9)、押田良樹・田中一男・村尾俊治(11)、佐々木康雄・松本耕司(16)

■第5回「里山歩くぞ！」ハイキング(箕面リベンジ版)

日時／平成28年4月15日(金)
コース／阪急箕面駅～箕面の大滝(往復)

昨年(H27)秋に生憎の雨で流れた箕面ハイキングのリベンジ開催をしました。朝から見事に晴れ上がり、箕面の春の自然を満喫、我々を出迎えた猿とも仲よくなりました。



◆参加者は下記の8名。(敬称略)

(リベンジ組) 田中英明(9)、新見泰朗(19)、鶴羽孝子(22)、(秋・春連続組) 小泉勝是(14)、松本耕司(16)、山嵯麻里子(20)、木山洋子・大浜 緑(22)



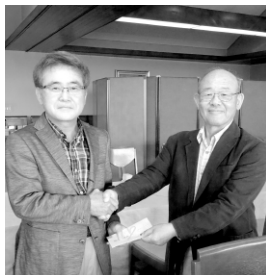
■第37回 ゴルフコンペ(春季)

日時／平成28年5月31日(火)

会場／武庫ノ台ゴルフコース

石橋善和さん(22)が初参加優勝！

昨年から春秋2回の開催とし、春は会員以外のゲスト参加(主に近畿松江会の方々)を歓迎するオープンコンペとしておこないました。



好天に恵まれ、ダブルペリアでの熱戦の結果、初参加の石橋善和さん(22)が、グロス94、ハンディ20.4、ネット73.6で見事優勝し、鮮烈なデビューを飾りました。2位は井上伸久さん(16)、3位は客野伸さん(5)でした。

◆参加者は下記の21名。(敬称略)

客野伸・寺本尚由・仁宮龍聖(5)、木村八重子(9)、押田良樹(11)、井上伸久・梅木隆志・松本耕司(16)、小数賀健二・佐野和子・三好資子ご夫妻(20)、石橋善和(22)、(ゲスト)伊藤征治、井上隆吉、大野堅造、神谷紀男、木村恵吉、武田貞雄、竹谷奨、藤城坦



■第11回 文楽鑑賞会

日時／平成28年7月24日(日)

会場／国立文楽劇場

真夏にふさわしい怪談とアクションものという趣向で、怪談の方は「薫樹累物語(めいぼくかさねものがたり)」の「豆腐屋の段」、「埴生村の段」、「土橋の段」。アクションの方は「伊勢音頭恋寝刃(いせおんどこいのねたば)」の「古市油屋の段」、「奥庭十人斬りの段」でした。



この時代の「忠孝第一」の厳格、強烈な生き方に思わず我が身を振り返りました。

◆参加者は下記の28名。(敬称略)

石原綏子・ご友人(6)、木村八重子・清水良子ご夫妻・佐々木悦子・佐藤早智子(9)、押田良樹・中尾長子(11)、加藤巡一ご夫妻(14)、土田和男・松本耕司・森藤哲章(16)、渡辺悟・佐野和子・三好資子ご夫妻(20)、内藤善夫ご夫妻・大浦綾子ご夫妻・大浜緑・木山洋子・鶴羽孝子(22)、吉岡恵子(23)
＜ゲスト＞橋本充男ご夫妻



■(番外)インターハイ陸上競技女子800mの高校日本一(61年ぶり)を応援

日時／平成28年8月1日(月)

会場／岡山県総合グランド陸上競技場



月刊陸上競技9月号より

北高3年福田翔子選手が6月26日の第100回日本陸上競技選手権女子800mで、高校生としては17年ぶりに日本歴代4位(2分5秒02)の好記録で優勝する快挙を成し遂げました。これは双松会員としては、津田晴一郎(中45)、山田寧(高9)、荒井(辰巳)悦加(高51)に次ぐ4人目で、現役生徒としては初めてでした。

これを受け、陸上部OB会(三柳会)は何としてもインターハイとの二冠を達成して欲しいと炎天下の岡山に応援に駆けつけました。

重圧の中、福田選手は2分4秒29の好記録(高校歴代2位)で見事に優勝。大先輩の故原陽堅さん(7)の走幅跳優勝以来、61年ぶりの高校日本一を母校

にもたらし、応援団も歓喜にむせびました。福田翔子選手、だんだん!!

◆参加者は下記の12名。(敬称略)

(近畿から)清原正義・松本耕司(16)、岡久夫(17)、万波迪義(19)、内藤善夫(22)、金田康嗣(29)、(広島から)吉岡一郎(29)、(東京から)中島良夫(20)、簸川角学(28)、(松江から)木村隆司(16)、原仁史(25)、泉雄二郎校長(26・理5)

■第11回 歴史ウォーキング 「真田丸の故地を訪ねて」

日時／平成28年9月25日(日)

コース(概略)／J R 森ノ宮駅⇒三光神社、心眼寺、真田丸顕彰碑、明星学園(真田丸)、四天王寺、安居神社、茶臼山⇒J R 天王寺駅

今回は、NHK大河ドラマ「真田丸」に因んで、大坂冬・夏の陣の真田幸村ゆかりの地、特に「真田丸」があったと推定される明星学園付近を念入りに歩き、往時を偲びました。2期神田田鶴子さんが全行



年長・中組



年少組



程踏破をされたのはお見事です。

◆参加者は下記の27名。(敬称略)

神田田鶴子(2)、石原綏子・ご友人(6)、佐々木悦子(9)、押田良樹・後藤武久・畑田稔・村尾俊治(11)、萩野貫悟(12)、小泉勝是・三島幸子(14)、長野米一ご夫妻・松本耕司・森藤哲章・田中由美子(16)、新見泰朗(19)、渡辺悟・佐野和子・三好資子ご夫妻・山寄麻里子(20)、大浜緑・木山洋子(22)、橘千里・山口紀子(23)、瀬戸口二三子(24)

■第6回 里山歩くぞ！ハイキング 「浄瑠璃寺、岩船寺、当尾の里の石仏を訪ねて」

日時／平成28年10月23日(日)

コース(概略)／近鉄奈良駅⇒急行バスで浄瑠璃寺へ⇒石仏巡り⇒岩船寺⇒石仏巡り⇒バスで近鉄奈良駅。(歩行距離6～7km)

今回も奈良在住の田中由美子さん(16)にお世話になりました。直前の二転三転の天気予報にヤキモキしながら、結果は曇り時々晴れの絶好の日和となり、高校の教科書にあった堀辰雄が描いた「浄瑠璃寺」の静かなたたずまいや、当尾の石仏たちを堪能しました。

◆参加者は下記の17名。(敬称略)

佐々木悦子(9)、後藤武久・村尾俊治(11)、小泉勝是・宮原琢郎・三島幸子(14)、松本耕司・三成宏二・森藤哲章・田中由美子(16)、岡久夫(17)、渡辺悟・佐野和子・三好資子ご夫妻・山寄麻里子(20)、木山洋子(22)



■第38回 ゴルフコンペ(秋季)

日時／平成28年12月8日(木)

場所／武庫ノ台ゴルフコース

田黒公司さん(32)が2度目の優勝！

今回は近畿松江会コンペと開催が同時期になったことから、両会のジョイントで20名(当会からは8名)が参加しておこなわれました。ダブルペリアで競技し、優勝は田黒公司さん(32)がグロス90、ハンディ18.0、ネット72.0の成績で、前年12月



の第36回の初優勝に続き、見事2度目の優勝を飾りました。当会からは井上伸久さん(16)が5位、寺本尚由さん(5)が8位と健闘しました。

◆当会の参加者は下記の8名。(敬称略)

寺本尚由・仁宮竜聖(5)、押田良樹・畑田稔(11)、井上伸久・松本耕司(16)、石橋善和(22)、田黒公司(32)



■ 2017(平成29)年度 事務局会議(兼)有志新年懇親会

日時／平成29年1月7日(土)

会場／曾根崎「がんこ」本店

事務局会議にご参加いただいている役員、昨年度の行事や総会のお手伝いをいただいた方にお声をかけ、有志で昨年度の慰労と新年度の決起の有意義なひと時を持ちました。

◆参加者は下記の23名。(敬称略)

押田良樹・田中一男・村尾俊治(11)、萩野貫悟(12)、小泉勝是(14)、梅木隆志・土田和男・松本耕司(16)、小田一美(18)、池田喜美代(19)、渡辺悟・佐野和子・三好資子・物種慶子・山寄麻里子(20)、村田貢・鶴羽孝子(22)、山口紀子(23)、泉紳一郎(24・理3)、宍道弘志(31)、田黒公司(32)、富岡幸子(35)、長谷川浩之(38)



■ 2017(平成29)年度 役員会

日時／平成29年2月4日(土)

会場／中央電気倶楽部

会則第8条に則り役員会を開催し、2016年度の事業、収支状況の報告、2017年度の業務方針についての意見交換をおこないました。

収支の好転状況が報告され、2018年60周年の前年として、総会懇親会の参加者の拡大に重点をおくことを確認しました。

山本常任顧問(7)からは、「弁護士から聞いた話だが、最近は遺産相続をめぐる係争が大変多いとのこと。次の世代に残すべきものは、志とか思いやりとかの目には見えなくても精神として大事なものであって、土地、財産などではないことを強く思う。近畿双松会の伝統もその一つではないだろうか。」という大変含蓄のあるお話をいただきました。参加役員は意を強くするとともに、新年の抱負を語り合って懇親を深めました。

◆参加役員は下記の21名。(敬称略)

[常任顧問] 山本雅昭(7)、押田良樹(11) [会長] 松本耕司(16) [副会長] 梅木隆志(16)、渡辺悟、三好資子(20) [監事] 物種慶子(20)、鶴羽孝子(22) [常任幹事] 加藤巡一(14)、金坂喜好(15)、岡久夫(17)、小田一美(18)、岩田一志(19)、小敷賀健二(20)、内藤善夫(22)、松本潤(23) [幹事] 久保田幸雄(2)、田村稔久(6)、萩野貫悟(12)、池田喜美代(19)、泉紳一郎(24・理3)



■ 14期(昭和38年卒)

近畿同期会

日時／平成28年11月26日(金)
会場／ホテル北野プラザ「六甲荘」
報告者／加藤巡一

松江から参加してくれた人もいました。懐かしい話題は尽きず、全員が少し若返りました。

◆参加者は下記の9名。(敬称略)

石田英之、片山伸雄、木村修芳、富永寿郎、中村千恵子、宮原琢朗、三好洋二、大和勝年、加藤巡一



■ 16期(昭和40年卒)

卒業50周年 & 古稀祝い同窓会

日時／平成28年6月4日(土)
会場／(松江)サンラポーむらくも
報告者／松本耕司

65歳時以来4年ぶりに全国から77名(卒業450名)が松江に集まり、再会を喜びあいました。少しずつ参加者が減っていくのは、これはまあ自然の摂



理でしょう。

同窓会前には、朝から松江カントリーで恒例のゴルフコンペ、14名の参加がありました。

■ 17期(昭和41年卒)

関西同窓会

日時／平成28年5月21日(土)
場所／(吹田)しゃぶバー 柏木
報告者／岡 久夫

隔年実施で恒例の関西同期会を、柏木薫さん経営のお店で、全国各地からを含め24名が参加して開催しました。今回は岩本(万波)さんの教え子で元宝塚歌劇の絵莉千晶さん(写真の中央、左隣はピアノの方)をお招きしたミニライブで大いに盛り上がりました。次回は平成30年(2018)の開催を予定していますので心づもりください。

また、今年は5月12日(金)に松江で「17期古稀の会」が実施されますが、関西からも多数のご参加があつて楽しい時間が過ごせることを楽しみにしています。



同期会便り

この近畿双松会でもいろいろな行事があり、私は楽しく参加していますが、そちらでも又、お会いいたしましょう。

◆参加者は下記、全国各地から24名。(敬称略)

(近畿から) 秋鹿隆(幹事)、浅津民夫、石川敏朗(松浦)、岩本眞左子(万波)、岡久夫(次回幹事)、柏木薫、後藤研三、島本妃早美(米田・次回幹事)、杉原幹人、田中幸子(高橋)、永井貞泰(次回幹事)、夏川一輝、原田博子(森井)、松井美美子(福田・次回幹事)、松本章(幹事)、松本芳樹、山口悦子(田代・幹事)(東京から) 太田佳子、坂下弘(加藤)、下田一利、長州大(岡山・松江から) 山根弘嗣、近藤富美子、吉儀美由紀(余村)

■18期(昭和42年卒) 近畿地区ミニ同期会

日時／平成28年9月4日(日)
会場／中華料理「愛蓮」
報告者／小田一美

3回目のミニ同期会を開催しました。最初のきっかけはH25年にたまたま近畿双松会の18期幹事になり、近畿地区で同期会が開催されていないことを知りました。そこで一部有志に声を掛けるところ、世代臭のする「6匹のおっさん」が集合。50年の歳月を超え一瞬にして北高時代に帰り、大いに盛り上がり(すぎ)ました。

とても楽しかったので継続しようとの話になり今回で3回目。3人の美熟女を含め8人が参加。北高時代に面識がある人もない人もいましたが、大いに喋り、笑い、あっという間に4時間が経過し、美しい10代がよみがえりました。

今回は今年の6月頃に開催したいと思っています。一人でも大丈夫。面識なくてもノープロブレム。青春時代がよみがえります。人の輪が広がります。

一人でも多くの同期の仲間が増えれば嬉しく思います。楽しい事請け合いです。是非下記にご連



絡下さい。(連絡先 小田一美 090-9624-7254)

なお、今年は松江で18期全体の古稀同窓会が10月21日(土)に開催予定です。

◆参加者は下記の8名。(敬称略)

石賀誠一郎、太田善博、内藤和夫、森山和夫、小田一美、大堀愛子(引野)、小川美智子(岸)、中村美和子(寺本)

■22期(昭和46年卒) 関西同窓会「秋の集い」

日時／平成28年11月5日(土)
会場／道頓堀 治兵衛
報告者／内藤清志

近畿在住の22期の仲間は、定期的に会合を重ねていますが、2016年秋の集いを好天に恵まれた11月5日、みなみの「道頓堀治兵衛」に男性10名、女性4名、計14名が参加して賑やかに開催しました。



堺市展の絵画の部に見事入選された内村昭画伯の乾杯の発声の後、料理、お酒を楽しみながら、近況報告・高校時代・国際情勢?などに、どのテーブルも会話が弾んで瞬く間に時間が経ち、最後に石橋善和幹事による閉会の挨拶で、再会を楽しみに再開となりました。

同期会も60歳を過ぎて自由時間が増えたせいでしょうか、徐々に参加者も増えてまいりました。今回参加されなかった方も次回は是非参加していただければと願っています。

⇒22期ホームページ

(URL) <http://realwind.jp/kitako/>

◆参加者は下記の14名。(敬称略)

石川章、石橋善和、内村昭、大浦綾子、太田朗夫、大浜緑(宮本)、木山洋子(平田)、倉橋勉、実重祐二、鶴羽孝子(石橋)、内藤清志、永瀬光一郎、村田貢、吉賀浩一郎

■ 24(理3)期(昭和48年卒)

第1回近畿同窓会

日時／平成28年10月22日(土)

会場／がんこ曾根崎本店

報告者／泉 紳一郎

男女6人ずつの12人が集まった。卒業(昭和48年3月)以来の再会シーンもあり・・・というのは関西デビューの私だけか(笑)。一気に何十年も若返った気分になれる。還暦を少し超えた世代としては、あすへの活力となる懐かしくかつ新鮮な出会いがある。

また機会を作って是非、今度はさらに大勢の参加を得て、この会が開かれればと強く思う。開催ご支援をいただいた先輩お二人(松本会長、渡辺事務局長)には深く感謝。



◆参加者は下記の12名。(敬称略)

糸原直彦(松江から)、泉紳一郎(理)、岩間令道(理)、吉城聖顕、徳田完二、吉岡秀文、有馬真弓(木村)、大志野喜世子(隠木)、小川ひとみ(堀江)、河村敦子(橋本)、瀬戸口二三子(三隅)、吉賀由紀子(古川)

■ 26(理5)期(昭和50年卒)

“初”関西同期会

日時／平成28年10月22日(土)

会場／ホテルグランヴィア大阪内

報告者／松村 聡

昨夏の松江での還暦同窓会を受け、関西でも初めて同期会を開催しました。残念ながら4名の参加にとどまりましたが、卒業以来の再会もあり昔話で大いに盛り上がりました。



これが契機となってか、11月の近畿双松会総会には初めて女性の参加もあり、女子会の設営にも注力することになりました。

今後の同期皆さんの積極的なご参加をお待ちしています。

◆参加者は下記の4名。(敬称略)

周藤達夫、福岡則博、岩崎範樹(理)、松村聡(理)

会員近況報告

この近況報告は、昨年の総会の出欠回答時(9～11月)を中心として、昨年の会報発行以降にお寄せいただいた近況を加えて構成しました。半年前後の時差がありますこと、ご承知おきください。

中63(昭18卒)肥塚隆正

今年の夏は特にからだにこたえました。来年は総会に出席できるかと案じているこの頃です。

お蔭さまでなんとか過ぎております。趣味を定年後に始めたので楽しみながら過ぎております。

中68(昭23卒)青戸元也

お蔭さまで元気に過ぎております。

中68(昭23卒)荒銀昌治

図書館から歴史小説など色々な本を借りてきて乱読しています。この頃、読んでいる内に以前借りたことがあることに気づき、苦笑することが多くなりました。

中69(昭24卒)杵築武彦

療養中のため総会は欠席します。

高1(昭25卒)宇藤二男丸

元気です。

高1(昭25卒)田端要子

年齢を重ねるとともに、故郷がなつかしく思われて、元気な間はお目もじして、親しくお話したいと存じています。

高2(昭26卒)久保田幸雄

本年夏84歳に成長(83歳から1年老化?)。認知症ではないと言われるのに、記憶力は確実に下がっている。しかし、中学校1年、第二次大戦終了前の学徒動員の記憶は鮮明。乙立村の山頂、本土決戦のための横穴式陣地建設用の材木運び。現代の中学1年生には考えられないことだろう。

高3(昭27卒)永井彰

年齢相応の生活をしております。

高4(昭28卒)藤原小夜子

ボランティアを始めて40年、こども会から老人会まで、他もかかえ込んで毎日駆けまわっています。

こんな私的時間のない老人になるなんて思っていませんでしたが、今では私の宝になっています。

総会当日は地域の防災訓練です。何も出来ませんが参加者としてみんなと共に行きますので・・・。楽しい会になりますよう、皆さんによろしく。では又。

高5(昭29卒)青木謙整

京都市東山区、大本山東福寺宗務総長等も退任し、静かな生活を過ごしております。(東福寺のモミジを有名にしたのは私です。京都で最初に朝日テレビでライトアップをしました。)

高5(昭29卒)板垣衛武

昔、「花いちもんめ」主演 千秋実という映画がありました。島根大学の先生だった千秋実が妻君を亡くし、大阪の息子に引き取られて松江を離れますが、認知症が進み、松江に帰りたくて徘徊し、息子を悩ませた後、宍道湖へ連れてきてもらおうと、夕陽を見て泣くのがフィナーレでした。

小生もそうなるような予感がしますが、家族はその心情が判ってしまして、必ず宍道湖に連れて行くからねと約束してくれています。

高5(昭29卒)春日敏邦

松江での個展の整理等の為、残念ですが出席できません。盛会をお祈りいたします。

高5(昭29卒)沼田金次

病気のため欠席します。お世話、ご苦労さまです。

高5(昭29卒)山田 稔

80歳を過ぎてからはすべての会合に欠席していますが、行事等の連絡については頂けるのであれば

お願いしたいと存じます。

.....
高5(昭29卒)小さい姉妹 ヴェロニカ恵子
(野津恵子)

総会のお知らせを有り難うございました。お蔭
さまで元気にいたしております。

楽しく、力づけられる集まりになりますように。

.....
高6(昭30卒)原 卓司

齢八十ともなれば体力低下し、会合出席が億劫に
なりました。

.....
高6(昭30卒)森岡敏眞

年1回の懇親会に参加出来るのがやっとで申し訳
なく思っています。とうとう80歳の太台に乗りま
した。同期の田村氏が役員で頑張ってくれている
のですが、彼には全然高齢さを感じる事がなく、同
期として大変嬉しく思っています。彼によろしく。

.....
高6(昭30卒)石原綾子

余生を皆様のお蔭で楽しく過ごしています。総
会当日は島根短大創立70周年と重なっていますの
で、その日は松江滞在の予定です。

昨年は歴史ウォーキングで堺にもお出で頂き、あ
りがとうございました。今後ともよろしく願ひ
申しあげます。

.....
高6(昭30卒)島田和子

体調不良のため、欠席いたします。

.....
高7(昭31卒)玉井洋子

中学・高校の松江での傘寿の同窓会に出席させ
ていただき、皆様から元気をいただきました。

.....
高9(昭33卒)田中英明

家庭菜園、植物観察ハイキングなどで過していま
す。

.....
高9(昭33卒)村岡高史

皆様のご健康をお祈り申し上げます。

高9(昭33卒)清水良子

喜寿を迎え、何となく体力の衰えを感じるこの頃
です。

.....
高10(昭34卒)面白 紘

9月13～14日、玉造温泉にて本庄小・中学校(第
9期)同窓会を実施、19名が出席。楽しいひと時を
過ごしました。

.....
高10(昭34卒)佐和田 丸

私も人間をやってきて、ふと気が付くと喜寿に
なっていた。

(1)3人の子供が企画し、孫6人、それに私ども二
人の総勢14人で喜寿のお祝いをしてくれた。場所は、
滋賀県は伊吹山麓のグリーンパーク山東で、コテー
ジ2棟を借り切って行った。すぐそばの伊吹山も祝
福してくれるように美しい姿をみせていた。コテー
ジでの生活も楽しく、特に孫たちは喜んだ。

(2)最近、知人の訃報に接する機会が増えた。裏
を返せば、私も候補のひとりということだが、死に
ついていろいろと考え、葬儀や墓の準備を考える
ようになった。郷里の飯南町に、県民の森大万木山
(おおよろぎさん)がある。山容が仏の寝姿に似て
いることから、寝仏山(ねぼとけさん)の愛称があり、
いわゆるぼっくり山となっている。(写真参照)。



私も、ピンピンコロリと極楽往生できるよう、時
折、思い出しては他の方と同じように手を合わせて
いる。現地に行くほどご利益はないかもしれませんが、同窓諸賢も写真に向かって手をあわせてはい
かがですか。おすすめしておきます。(笑)

.....
高10(昭34卒)須山 耕

老々介護、特に以前と変わりありません。

.....
高10(昭34卒)清水小枝子

元気に暮らしています。この10月18日に東京で
松高10期の関東支部の同期会(湖山会)があり、出
席を予定しています。総会は失礼をしますが、ご盛

会をお祈りしています。

高11(昭35卒)太田厚

高齢者大学でのクラブ活動や公民館での児童対象のボランティア、老人施設慰問等をやっています。

高11(昭35卒)小久江良雄

元気で、毎日を送っています。

高11(昭35卒)神門英明

今年は二度松江へ行きました。近年は不幸事で松江へ行くだけです。

高11(昭35卒)高本紘史(松江市在住)

毎回連絡をいただきながら参加できずにいます。松江での生活も12年を過ぎ、いつの間にやら松江人になっているようです。

日常はスポーツクラブ、ボート等々、元気に飛び跳ねています。市民レガッタでは毎年、押田氏に応援してもらっており、メンバー20名はいつも感謝しています。

高11(昭35卒)今井洋子

今回は出席出来ると楽しみにしていましたが、趣味で始めた会の忘年会が入ってしまい残念です。

高11(昭35卒)鈴木洋子

11/23～12/3、ニュージーランド旅行の為、欠席します。

高12(昭36卒)福岡昭光

いつもお世話をいただきながら、不参加ばかりですみません。73歳となりましたが、松江⇄大阪の生活を楽しんでいます。今年の稲の収穫は80kgと豊作でした。故郷はいいですね。

高12(昭36卒)山本輝夫

本年は創立140周年、真におめでとうございます。卒業生の一人であることにこの上ない誇りと喜びを感じ、幸せな気分で近況のペンを走らせています。

(1) 7/2付け第37号双松会々報にバドミントン部の戦績掲載。妹の孫も県三冠王(S、W、G)とし

てインターハイ出場。加えて、我が孫もサッカーで公立進学校としては5年ぶりに、予選参加185校の愛知県第一代表として同じインターハイの出場に大感激！ 思わず孫に「生まれてきてくれてアリガトウ・・・と」。

松江の孫はクラスメイトに、北高始まって以来の女子800m全日本選手権チャンピオン福田翔子選手(インターハイのVは当然)もいるそうで、上には上があるものだ・・・と。

併せてリオ五輪のメダルラッシュ。就中、錦織選手のテニスは96年ぶりのメダル獲得の快挙に大拍手を。本当に熱く燃えた'16年夏でした。

ケイ君とともに、翔子さんも4年後を視野に、健やかにしなやかに名前のように大空に飛翔されることを祈る。

(2) '08会報(設立50周年記念近畿双松会会報。赤い表紙)に、かつてサッカー部で大活躍された面白紘氏(10)が寄稿された<サッカー部との出会い>によれば、「昭和31年当時、県内でサッカー部のある高校は、松高のほか4校(大社、出雲、浜田、益田)しかなく、大会はすべて二日間のリーグ戦方式で、蒸気機関車に揺られての一泊遠征旅行だった」と。

現在の高校サッカー熱には驚き、隔世の感を禁じ得ない(因みに、'16島根県予選参加校は32校、代表は立正大浜南)。これもJリーグを頂点とした、今や野球を凌ぐ国民的スポーツなのだと納得。小生の元会社がJリーグの冠スポンサーとして支援していることに先見の明を感じ、誇りに思うこの頃。

(3) 「自分には出来ない！は心の“障壁”」を主題のパラリンピアン達にあやかり、フィットネスで筋トレ、走り、泳ぎに熱中している。光輝(後期)高齢者級目前のジイサマですが、“今日が人生最後の日”の思いと、“思いやり”の心で少々ボランティアで過す毎日。だんだん。

高13(昭37卒)桑原洋史

先日、チェコのプラハとオーストリアのウィーンに行きました。プラハはヨーロッパでの度々の戦火にも遭わず、中世の街並みが残っている素敵な町でした。オーストリアは何となくオシャレな町という印象でした。シェーンブルン宮殿は少し期待ハズレでした。

高14(昭38卒)加藤巡一

今年の春の叙勲で、教育功勞により瑞宝小綬章を受章し、宮中で拝謁させて頂きました。皆様方のお蔭です。感謝しています。

高14(昭38山口高校卒)小泉勝是

絵を描いたり、社会貢献活動をしたり、「オモチャ」を作ったりと忙しくしております。

社会貢献活動とは、子ども(小学生)の理科離れを危惧する元教師の方々が、大阪府内で土、日に開催している「科学実験教室」の授業スタッフ(ボランティア)です。この教室では理科に興味を持ってもらうために、学校の現場では危険だと敬遠されつつある、電気、火、科学薬品、工具などを敢えて使います。もちろん学校の教室と違って先生一人ではなく複数のスタッフが丁寧にサポートするから出来ることです。

子どもたちは授業の後、セットで開催される「オモチャ作り」を大変楽しみに参加してくれており、私も一石二鳥で楽しんでいます。「オモチャ」は電気や磁石を使った最近のもの、木や竹や紙や糸で作る日本古来の伝統のオモチャなどを作ります。

また、私は大阪府高齢者大学校で「オモチャづくりの教室」にも通っていますが、そこで知り合った同級生の女性が、何と文楽の語り手「豊竹芳穂太夫」のお母さんで、「近畿双松会文楽鑑賞」の行事に心からの御礼を言われました。オモチャのご縁がここまでつながるとは思ってもいませんでした。

高14(昭38卒)小松三樹

北高当時の野球部のことを思い出しながら生活しています。

高14(昭38卒)木幡晃正

いつもお世話、有難うございます。

高14(昭38卒)宮原琢郎

案内、有難うございます。都合がつかず欠席させていただきます。

高15(昭39卒)真庭 功

今年(2016)3月まで、保育園の理事長をボラン

ティアで行っていました。

高16(昭40卒)佐々木康雄

定年が過ぎ、毎日が日曜日、古稀も迎えましたが、障害でなく「生涯スポーツ剣道」を続けていたお蔭で、今も中・高生の部活の指導や、各方面それぞれの人達との交流と、それなりに過ごしています。

一つだけの心配はまだ末娘が独身ということですよ。

高16(昭40卒)坪倉司郎

申し訳ありません。所用にて欠席いたします。

高16(昭40卒)松本耕司

見た目からは「お元気そうですね」と言われ、今までは「有難うございます」とお答えしてきましたが、体内事情はいろいろありますので、さて、公言しております「90まで行くぞ!」を実現するにはどうしたらいいのやら?まずは、過ぎたこの10年を検証するところから始めたいと思いますが、「反省のみ」になりそう。

高16(昭40卒)三吉 孜

70歳前後になると、ご多聞にもれず身体のがたが出てくるようです。「健康長寿」と言うは易く行うは難しです。

趣味の写真は好調で、今年は二科展(公募)その他に入りました。

高16(昭40卒)森藤哲章

70歳を過ぎてなお常勤勤務(医師)をしております。親類縁者も高齢になり病気になるったり不幸事があつたりです。畑仕事等もするため2週間に1度はドライブしながら郷里広瀬に帰省しております。

この前の久しぶりの山陰の大雪が話題となった1月23日夜間には、通行止めや渋滞のため14時間半程かけて奈良に帰りましたが、翌昼からの仕事にはなんとか間にあいました。

何事にも上には上があるもので、先日の山陰中央新報によりますと、19期卒業の中西敏雄氏は安来市布部で先日医院を開業され(加納美術館の近所にて)2週間に1度ずつ東京から帰って在宅医療をさ

れているようです。

高16(昭40卒)石川菖子

同期の清原さんの講演会でしたので、とても興味が
あり、参加したく思いましたが、用事が重なる月
で、残念ながらあきらめました。

高17(昭41卒)岡久夫

総会参加返事、一番乗りを目指していますが？

高17(昭41卒)木村成子

せっかくご案内を頂きましたが、先に予定が入っ
ており、残念ですが欠席いたします。

近隣をハイキングしたり、老人ホームにボラン
ティアに出かけたりしております。

来年5/12、17期古稀同窓会は出席予定。

高17(昭41卒)高井美佐子

いつもお誘い、有難うございます。

高17(昭41卒)宮本由美子

今回、欠席させていただきます。

高17(昭41卒)山口悦子

17期ミニ同期会の様子、楽しそうで何よりと思っ
ています。総会当日はこちらの防災訓練の日で、今
年来年と町の役員で、全員必ず参加ということだ
るので残念ですが欠席させていただきます。

古稀同窓会で皆様にお会いできるのを楽しみに
しております。

高18(昭42卒)岩本充義

同期の小田君の誘いで初めての参加です。48年
前から松江には帰っていませんので、久しぶりに松
江の雰囲気味わってみたいです。(そげだが、あ
げだが、・・してごせ、と)

高18(昭42卒)小田一美

9月4日、北高18期のミニ同期会を開催しました。
8人の仲間が集合し、楽しい時間を過ごしました。

高18(昭42卒)内藤和夫

昨年より18期幹事小田一美君のお世話で、近畿
在住の18期有志が集まってミニ同期会を開き、楽
しいひと時を過ごしています。

また、松江在住の18期のメンバーで実施してい
る宍道湖ウォークや中海ウォークに参加し、楽しい
ひと時を過ごしました。

高19(昭43卒)横原 隆

年金生活を楽しんでおります。今回、都合悪く参
加できません。皆様のご健勝をお祈りします。

高19(昭43卒)池田喜美代

9月はじめに松江の妹と、東京駅で合流し一泊旅。
スカイツリー、浅草、上野と東京見物して、念願の庭
園美術館(白金)にも行くことができました。

高20(昭44卒)金見幸夫

城陽市東部コミュニティーセンター館長として
週30Hの勤務です。当日は、コミセンの事業のため、
申し訳ありませんが欠席させていただきます。盛
会をお祈りいたします。

高20(昭44卒)安井文子

父が93歳になり、松江にいますので行ったり来
たり。大阪には孫二人。いそがしい日々を送って
います。

高20(昭44卒)山崎麻里子

後ろ髪を引かれながら、仕事をリタイアして早5
年。その間に母を見送り、今は月に1、2度、高齢者
住宅で一人暮らしをしている98歳の父に会いに帰
松しています。空き家になっている実家に父を連
れ帰り二人で過します。

父と居ると、とても癒されます。最近やっと仕事
を辞めて良かったんだと気持ちの上で折り合いを
つけられるようになりました。

高21(昭45卒)花田幸久

幹事様方にはいつもお世話になっております。
今年は入院も経験しましたが、今は元気で暮らして
おります。

高22(昭46卒)石川 章

のんびりと、老後生活をしています。

高22(昭46卒)大浦綾子

皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

高22(昭46卒)大濱 緑

ご返事が遅くなって申し訳ありません。よろしくお願ひいたします。

高22(昭46卒)佐藤松子

小学校教諭を定年退職後、道の駅に野菜を出荷すべく、日々農作業に追われております。

高22(昭46卒)西村紀子

幹事の皆様、いつも有り難うございます。当日を楽しみにいたしております。

高23(昭47卒)後藤和彦

通訳ガイドとして、世界中の人々をガイドしております。

高23(昭47卒)渡辺 都

秋は行事が多く、残念ながら今回も欠席いたします。ご盛会、お祈りいたします。

高24(昭48卒)吉城聖顕

今年から参加させていただきます。よろしくお願いします。

高24(昭48卒)木村 悟

退職後、毎日が日曜日しています。

高24(昭48卒)山本武仁

欠席、申し訳ございません。

高24(昭48卒)河村敦子

10月の同期会に卒業後初参加し、不思議な気持ちもありつつ、感動で一杯になりました。

松本会長、渡辺副会長には大変お世話になりました。本当に有り難うございました。今回は出席できませんがご盛会となりますようお祈り申し上げます。

高24(昭48卒)瀬戸口二三子

北高の同期ではありませんが、たまたま幼なじみからの連絡で、近畿双松会の行事に参加するようになりました。

初めての一人での出席には「勇気」が要ります。同じような気持ちの方はおられると思います。総会の前に初めて同期会が開かれ、旧交を温めましたが、それも総会に参加するきっかけになり、同じテーブルに一人でも多くの方が集まることを願っています。(私自身は実家法事のため、欠席で申し訳ありません)

高24・理3(昭48卒)泉 紳一郎

本年5月より、吹田にある私立大学の勤務となり、初めての関西暮らしが始まりました。よろしくお願いいたします。

高24・理3(昭48卒)西村治男

大阪府済生会中津病院院長補佐、糖尿病内分泌内科部長。2歳の初孫が「いやいや期(反抗期)」で困っています。

高26(昭50卒)周藤達夫

現在、広島で単身赴任中です。60歳の節目の歳ですので、同期にも声かけをしております。何人か連れて来るかもしれません。

高26(昭50卒)福間則博

いつもお世話になっております。今年は同期会を行えるようにしたいと思います。

高26(昭50卒)前羽香江

七人目の孫の子守り中、育児バアをしております。双松会を取りまとめ下さる皆様に御礼申し上げます。ご連絡、ありがとうございました。

高26(昭50卒)松村久美子

松江と神戸の往復の中で、日がとれませんので欠席します。皆様によろしくおっしゃってください。

高26(昭50卒)山本多美枝(岐阜市在住)

26期の還暦同窓会で、福間さんに声をかけていた

だき、近畿双松会に加えていただきました。折角の機会ですが、生憎都合がつかず申し訳ありません。皆様のご多幸をお祈りしております。

.....

高26・理5(昭50卒)福島倫之(倉敷市在住)

申し訳ありません。当日、全国大会の予選があり、参加できません(監督をしています)。皆様によりしくお伝えください！

.....

高27(昭51卒)三浦清

毎回の欠席で申し訳ありません。土・日ともお客様との関係で予定が入っている事が多く、今回も既に予定が入っています。皆様に宜しくお伝えください。

高29(昭53卒)太田春樹

皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

.....

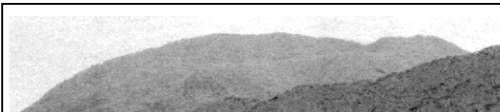
高29(昭53卒)達山 暢(松江市在住)

毎年ご案内いただき、心より感謝いたします。家族の状況に伴い、働き方も変え、松江暮らしに専心しています。本年は残念ながら欠席、ご盛会をお祈りします。

.....

高32(昭56卒)木村滋樹

ご返事が大変遅くなり、申し訳ございませんでした。



写真は、島根県民の森・大万木山(おおよろぎさん)。好眺望駐車場は、飯南町の道の駅とんぼら、大しめなわ館、頓原ラムネ銀泉、JAエルシー他。また、草峠(くさんだわ、R54頓原・松江道高野ICからいずれも車で約15分の中間点)一帯は、日本海・中国山脈の山並みが見える眺望絶佳の地となっています。

佐和田司法書士事務所(松江市)顧問
佐和田土地家屋調査士事務所(松江市)顧問
島根県遣島使 縁結びボランティア

佐和田 丸

〒573-1182 大阪府枚方市御殿山町 11-33-610

電話・Fax 072-848-7417

e-mail malu122@nifty.com

HP <http://simane.do47.net/kadoya.html>

以下縁結びコーナー お相手募集中！ 自薦他薦不問

○男性 1979年生

大学院専修科卒 茨木市内の神社跡取り 結婚後別居

○男性 1965年生

阪大薬卒 薬剤師 現在松江市内の薬局勤務

○女性 1972年生

岡山大経卒 ライター 関西在住者希望

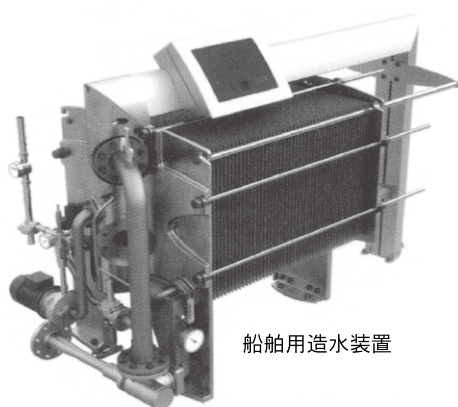
《鉄道車両、船舶、産業機器、ソリューション》



イメージ画像



鉄道車両運転台



船舶用造水装置



LEDリモコン
サーチライト

株式会社
トヨコーポレーション
TOYO & ENGINEERING CORP.

取締役社長 山本 雅昭

本社 / 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-21-35 Tel:06-6443-2061 Fax:06-6443-9736
東京支店・豊中工場

Gestaltung : K.Raum

獅子と狛犬

佐和田 丸(10)



写真は、拙宅の玄関に鎮座する、狛犬である。国の重要文化財である。

以前、京都国立博物館・平成知新館で、「獅子と狛犬」展があり鑑賞に行ってきた。

獅子は、向かって右にいて、口を開いている。狛犬は左におり、口を閉じ、頭に角が生えている。

獅子・狛犬のモデルは、百獣の王であるライオンである。日本に生息していないライオンがそのモデルになったのは興味深い。

エジプトでライオンは、王様の力の象徴であった。人間の頭とライオンの体をもつスフィンクスは、王様の姿を表していると言われている。

西アジアでは、ライオンはお城を守る動物と考えられており、門をライオンの彫刻で飾るのが常であった。

インドでは、ライオンは仏さまの偉大さを表すために、台座や柱に表された。

ライオンが生息していない中国では、唐獅子と呼ばれる独特の姿で表されるようになった。唐獅子にはまゆげがある。

日本に伝来した獅子は、絵や彫刻、工芸などに好んで表された。

日本に獅子が伝わると、対にする存在として、狛犬が考えられ、ペアで表されるようになった。基本的には、獅子と狛犬がペアであるが、角のないものを2頭あわせて「狛犬」と呼ぶこともある。

木や石、金属、やきものなど、いろいろな材質や、大小の獅子・狛犬がある。時代や流行によってスタイルもいろいろ。獅子と狛犬ではなく、キツネやウサギ、イノシシなどをおいている神社もある。

これまでの経緯を考えると、今後もいろいろと変化していく可能性がある。



終わりに、拙宅の狛犬について補足説明しておきます。

飯南町の実家は、しょうゆ・みそ製造販売業を営んでいましたが、経営者の実兄の急病死により、廃業のやむなきにいたりました。後に膨大な醸造用具が残されました。

それなりの民俗資料、文化遺産で、産廃処分するのは忍びない。そこで、吹田市の国立民族学博物館や三次市の広島県立歴史民俗資料館にお願いして、保存していただくことになりました。

その広島館から、資料充実のため、貢献していただいた記念・お礼として頂いたのがこの金属製の狛犬(レプリカ)である。広島県三原市八幡町の、御調(みつぎ)八幡宮の国の重要文化財狛犬であり、実物は木製である。

私は、この狛犬を見るたび、実家の醸造用具を思い出す。狛犬は、今は我が家の守り神として、玄関に鎮座してくれている。

HP <http://simane.do47.net/kadoya.html>
もあわせてご覧くだされば幸甚です。

豊かな4ヶ国を旅して思うこと 2016. 7. 24 ~ 8. 7 (15日間の旅)

村尾 俊治 (11)

はじめに：

同期の田中一男君の一言から4ヶ国の旅となった。デンマークのコペンハーゲン3泊、オランダのアムステルダム3泊、スコットランドのエジンバラ3泊、そしてドイツ4泊の主要都市中心の旅である。75歳前後のボケ老人二人の珍道中である。

今回は歩いて見て回る旅で、一日3.5万歩が限界であった。

田中君の健脚には助けられたが、それにしてもなぜ歩くのか？

早朝から夜まで歩くことで、その地域の日常生活(足元)が良く分かるからである。本稿の視点は、歩き回って何を感じたのかである。



田中一男君と筆者(右)

1. コペンハーゲンで豊かさを感じたのが事の始まり

コペンハーゲンの飛行場から中央駅に着き、そこから宿泊予定のHOTELまで徒歩30分のところ、探しながらのため倍ほどかかった。その歩きの中で、デンマークは小さい島の寄せ集めの国なのに、道路の広さ、空間の広さ、自転車交通システムの立派さなどから、なんと豊かな国なのかと感じたのである。(物価は日本より高いが)

そこで、今回訪ねる他の主要都市はいかがなものか？また、なぜ豊かさを感じさせるのかを探ることにした。

2. なぜ豊かさを感じたのか、その共通要因4項目について

2-1 インフラストラクチャーが充実している

予てよりインフラには2種類あると思っている。一つはご存知の水道であり、電気であり、生きてゆくためのインフラである。二つめは生活を豊かにするためのインフラである。

生活を豊かにするインフラについて、今回は公園や博物館にフォーカスして述べてみたい。特に博物館は、その国の歴史、民族、科学技術、国がどのようにして出来たのかなどに関する歴史資料の宝庫である。家族で、グループで見て学ぶ、正に、教育のインフラといってもよい。この種の博物館は入館料を安くしてある。特にエジンバラは無料がかつ立派である。

機会を設けてでも行って欲しい博物館を5つリストアップしておきたい。

☆エジンバラの国立博物館：子供も大人も学べる無料の4階建ての博物館である。西側4分の1のゾーンは別の建物のように見えるが、そこにはスコットランドが太古の時代にどのようにして出来たのかを展示している。大変珍しい内容である。



太古の姿を見せる岩山

☆ミュンヘンのドイツ博物館：あらゆる分野の科学技術の歴史的発展過程を実物で学ぶことが出来る。じっくり見るには一日かかる。例えば、造船の歴史、バイキング船から現代の船までを実物展示している。Uボートの展示も興味深い。

あらゆる科学技術分野を網羅し、子供達にとって理科教室でもある。ディスプレイ分野ではCRT（ブラウン管）も紹介されていた。

☆アムステルダムの歴史博物館：入館者全員が各展示内容の解説をイヤホンで聞くようになっている。もちろん入館時、日本語用を渡された。展示の見所の一つは民兵の力と働きでスペインからの独立を勝ち取った様子である。

（前回の旅行で知った博物館）

☆ニュールンベルグのコミュニケーションセンター：ヒトラーの最初の旗揚げ大集会の模様と彼の演説、実録フィルムの上映、そして戦争過程における写真の展示、最後は有名な戦犯を裁く裁判の実録フィルムの上映である。事実を見せる事で考えさせる博物館である。

☆ゲルマン民族博物館：蛮族として知らされてきたが極めて高い文化を持つ民族であった事が分かる。大半のドイツ人のルーツである。

ドイツ人の優秀さのベースを示しており、芸術から日常生活までの全ての分野で知恵と工夫が感じられ、しかも緻密である。

驚いた事例として聖母マリアの受胎告知の木彫りの像があったが、なんとお腹の中にキリスト像を造り込んでいた。

2-2 広々とした空間

コペンハーゲンの主要道路は広く感じた。単に広くスペースを使用しているだけでなく、電柱がないのである。このことは、4ヶ国共に徹底している。特にドイツは道路スペースが全般に狭いにも関わらず、電柱がないため空が開け、ずいぶん広く感じる。

2-3 公共の場の清潔さ

特に列車の駅構内や空港内のクリーン度は非常に高い。（日本も最近クリーン度は高くなったが）トランジットで3時間待たされたロンドンヒースロー空港に至っては喫煙箇所を全廃するほどの徹

底ぶりであった。先取り感もするが、新築を機会に踏み切ったのだろう。ちょっと驚いたが、これからきっと世界に広がるであろうと確信した。

2-4 ゆったりとした時間の流れ

以前のドイツ赴任で、はじめて体験したのが、日曜日は休日であり物音一つしないことである。時折、教会の鐘が聞こえるだけで時が止まったような静けさである。読書するか、クラシック音楽を聴くか、外出するのだが、目抜き通りもウインドーショッピングをゆっくりと楽しむ人がぼつりぼつりである。

今回はコペンハーゲンのチボリ公園や近郊の公園における人々の姿が印象的であった。

チボリ公園は思っていた程には大きくない。中に入ると中央部分が芝生の広場になっており、平日なのに子供達が好きに、自由に遊んでいる。両親も一緒に遊ぶか、周囲に腰掛けて見守っている。周辺の青空店では老夫婦がビアグラス片手に会話を楽しんでいる。もちろん、見世物、球技店などはあるが、



チボリ公園の広場

もうひとつ近郊の公園に行ってみた。小山あり、谷間あり、湖あり、林あり、緑の芝生の広場ありだが、多くの若者達が芝生の上で自由に遊んでいる。読書する人、踊る人、音楽を聴く人、遊戯する人、寝る人と様々である。悠々としたスローテンポの時の流れを肌で感じた。

3. インフラの重要なひとつとして、住居としての家のあり方

5年程前に首相が「日本の家も100年持つ家にならないといかん」と言っていたのを思い出した。耐久

性的話だったと思うが、それだけだろうか？それも今は立ち消えになっていないか？

エジンバラの旧市街はエジンバラ城を中心とした名所旧跡の集まりである。そして新市街は住む為の地域である。新しいと言っても見た目には何百年も経過した建物ばかりで、それが住居であった。



エジンバラの新市街

エジンバラの車道も歩道も石が敷き詰められている。この石畳を時速40～50kmで車が走るとビービーと言う大きな音がする。即、田中君は日本だと大問題であると。しかし、ここでは問題になっていない。なぜか？20～30cmはあろうかという分厚い外壁で出来た3階建て長屋風の高級住宅ビルである。すなわち、堅牢かつ外部音が遮断された住居なので全く問題にならないのである。

以前、フランスの大統領が日本人は木製の小さなウサギ小屋に住んでいると言ったことがある。田中君は「その意味がやっと分った」とつぶやいた。

ちなみに、我が自治会におけるトラブルで一番多いのが、近隣の音の問題である。エアコン室外機の騒音、水を流す音、車庫の出し入れ時の音、等々。

4. 自転車の交通システムについて（インフラのひとつ）

今回行った国は全て自転車の交通システムを構築してきている。完成度No1はデンマークであった。自転車専用道は歩道よりはるかに広く、専用の信号システムまで備えている。朝の通勤時間帯は正に自転車のラッシュアワーである。

ドイツはさほど完成度は高くなく、道路の幅も日



自転車専用道と信号機

本並みなので自転車走行は容易ではない。しかし、右側通行のルールをきちっと守るので、それを前提に狭いながらも人間の肩幅プラスアルファの自転車専用道を設けている。日本人観光客はこの専用道の認識が薄く意識が甘いため、つい自転車専用道に立ち入って注意される例が多い。（非常に危険な行為だと、真剣に叱られる）

5. これもインフラのひとつ、交差点のロータリー化

信号機のないロータリーはデンマーク、オランダ、エジンバラなどの市街では見られないものの郊外では随分見かけた。特にオランダでは多く見られた。

今回は、ドイツのシュツットガルト市内での取り組みについて述べる。空間の余裕が無い中、用地を広げることなく、いろいろ知恵を絞って作っている。25年程度前からフランスに学び導入してきている。狭い空間でいかに作るか、いかに安全に走行できるようにするか、知恵を出し工夫を重ねている。

地震国の日本には大変有効なインフラになりうる。交差点に電気が不要なのだから…。交差点内で自動車がUターン出来るくらいの広さがあれば十分である。（遅まきながら日本でも実証実験が始まっているようではある）

『ドイツには横断歩道が二種類あるという話』

一つは、信号機のないゼブラタイプ（日本と同じ模様）。

二つは、信号機があり両サイドに破線が引いてあるだけのタイプ。

ドイツでは自動車運転の基本的考えとして歩行

者優先、人命第一が徹底されている。(日本も同じと思うが)

その前提のもと、ゼブラタイプは歩行者優先で飛び出しも許される横断歩道である。従ってゼブラタイプに近づくと最低速度の徐行運転で神経を使いながら走行するべきである。一方の破線タイプの横断歩道では、歩行者が歩行者用信号を守るので信号通りに運転をすれば良い。

学校近くのスクールゾーンは、ほとんどゼブラタイプである(日本では発想が逆)。今回気づいたがロータリー手前の横断歩道もゼブラタイプが多かった。

6. 最後に

巡った国々がかねてより福祉に力を入れてきた国だということは周知のことである。歩き回ってその真髄を感じ取ってきた。さて日本はどうか？

今春来日したウルグアイ第40代大統領ホセ・ムヒカさんが日本人に問いかけた。

『皆さん幸せですか？』

『我々は経済を発展させるために生まれたのではありません、幸せになるためです』

『もっと毎日の人生を、その一瞬をしっかりと味わって暮らせるなら、それはとても幸せな事です』

朝日新聞に国民の給与に関する記事があったので引用する。

1991年から2014年の給与ランクの変化は、日本：9位→19位、オランダ：3位→7位、デンマーク：8位→8位、ドイツ：10位→12位、イギリス：15位→13位。

何れの国もほぼ順位を下げているが、日本以外は給与額で上げている。日本だけが順位も給与額も下げているのである。

因みにこの記事のタイトルは『取り残された日本』であった。

日本は未だに過去の経済大国を目指しているように思えてならない。

『なにが幸せのために必要なのか』に向け、限られた金を有効に使う知恵が必要な今日ではないだろうか？

以上

●旅のエピソード

その1：エジンバラの夜

この地では中華料理店へ同じ店に3日間通った。二人で新市街地を歩きながら探した店で、名前は『平安酒家』。久しぶりに麺類を食べながらビールで乾杯し一息ついたら、BGMが流れだした。何と、これは日本の歌ではないか！まるで日本にいるようで、曲名は「星影のワルツ」、「信濃川」、そして「夫婦春秋」。マスターに、何故この曲なの？と聞いたが、「NO IDEA」とつれない返事。それにしても、英国人、中国人客の多い中、日本人は我々二人だけなのに、何故日本の曲が流れていたのだろうか？旅行中ずっと頭から離れなかった。

その2：(加齢によるボケ1) エジンバラ国立博物館で

一通り見終わってそのまま出口へ行だったが、城で買った土産品をどこかに置き忘れたことに気づき、慌ててエレベーターに走る。どうもVTRを見ていて、こっくりこっくりしていたらしい。実は既に落し物として届けられており、無事に戻っていたが、田中君は拙い英語で必死に探し廻っていたようだ。老人には注意が必要だが、忘れ物を防ぐ知恵がいる。

その3：(加齢によるボケ2)

夕方歩き疲れてHOTEL (B & B) へ着いた途端、ポケットに鍵がない。全てのポケットを探したが無い。支配人に失くしたことを告げると、弁償金約5000円とのこと。仕方なく合鍵を借り部屋に入る。

一休憩の後、夕食に出掛けるとき、何気なしに田中君がポケットから鍵を出してきた。どうなっているのか？鍵は常に村尾が預かるルールだったが、何時彼のポケットに移動したのか？そして二人共に思い出した。早朝、市バス停留場へ向かう途中、今日投函予定の絵葉書をホテルに忘れたことに気づき、田中君『よし、ひとつ走り行って来るわ』と云ってくれた。その時、彼に鍵を渡したきり、その後はすっかり二人の頭から飛んでしまっていたのである。危うく5,000円を払うところであった。

編 集 後 記

「又、来年会いましょう」——。グラフ特集の最後尾にデンと配された集合写真(23頁)が何ともいいですね。

2016 年度近畿双松会「総会・講演会・懇親会」がいかに盛り上がったか、松本耕司会長の「事務局報告」に、簡潔にかつ余すところなく記されていますが、閉幕間際、カメラに向かって手を振る皆さんの楽しそうな(そしてちょっと名残惜しそうな?)姿に、この日の会合のすべてが詰まっている気がします。



総会参加者の集合写真(18頁)がいまの「総員集合!」「1枚写真」スタイルになったのは2015年度からでした。ベストショットを狙って照明室から激写し続けたのが3台のカメラです=写真。カメラ担当の皆さんの姿が不鮮明で残念。次は、あの“矢狭間”から顔を出してもらって、会報の記録にとどめたいと思っています。



2017 年度も皆さんのお知恵を拝借しながら、母校の活躍と故郷の動向にしっかりまなざしを向けた総会を目指します。「又、来年会いましょう」。

(渡辺 悟= 20 期 副会長)

近畿双松会報
2016（平成28）年度版 通巻 58 号

発効日／平成 29 年 3 月 31 日

編集兼発行者／近畿双松会

発行所／近畿双松会事務局

所在地／〒 550-0002

大阪市西区江戸堀 1-21-35

㈱トーヨーコーポレーション内

TEL 06-6443-2062

FAX 06-6443-9736

郵便振替口座／ 00910-0-103665

近畿双松会